

Accuphase

MDS SUPER AUDIO CD PLAYER



MDS SA-CDプレーヤー

DP-570

取扱説明書



ご使用の前に、この「取扱説明書」と別冊の「安全上のご注意」をよくお読み
のうえ、正しくお使いください。お読みになったあとは、お客様カードと引きか
えにお届けいたします「品質保証書」と一緒に大切に保管してください。

このたびはアキュフェーズ製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
 最高峰のオーディオ・コンポーネントを目指して完成されたアキュフェーズ製品は、個々のパーツの選択から製造工程、最終の出荷にいたるまで厳重なチェックを行い、その過程と結果の個々の履歴は、製品全体の品質保証に活かされています。このような品質管理から生まれた本機は、必ずやご満足いただけるものと思います。

末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

5年間の品質保証と保証書

本機の品質保証は5年間です。付属の「お客様カード(保証書発行はがき)」に必要事項を記入の上、必ず(なるべく10日以内に)ご返送ください。「お客様カード」と引きかえに「品質保証書」をお届けいたします。

- *「お客様カード」のご返送や「品質保証書」の発行について、詳しくは33ページをご参照ください。
- *「品質保証書」はサービスサポート時に必要となります。保証書がない場合は、全て有償修理となりますので、保証登録を行っていただき、届きました保証書を大切に保管してください。

製品に関するお問い合わせや異常が認められるときは、お求めの当社製品取扱店または当社品質保証部へ、直ちにご連絡ください。

尚、保証は日本国内のみ適用されます。

The Accuphase warranty is valid only in Japan.



マークについて

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人身事故の発生する可能性や製品に重大な損害を生じる恐れがあることを示しています。お客様への危害や、機器の損害を防止するため、表示の意味をご理解いただき、本製品を安全に正しくご使用ください。



警告

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性があり、その危険を避けるための事項が示してあります。



注意

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が軽度の傷害を負う可能性や製品に損害を生じる恐れがあり、その危険を避ける為の事項が示してあります。

付属品をご確認ください

- | | |
|------------------------------|------------------------------------|
| ● 取扱説明書(本書)..... 1冊 | ● 単3乾電池 2個 |
| ● 安全上のご注意..... 1冊 | ● AC電源コード(2m) 1本 |
| ● お客様情報の取扱いについて..... 1枚 | ● プラグ付オーディオ・ケーブル(1m)(AL-10) ... 1組 |
| ● お客様カード(保証書発行はがき) 1枚 | ● USBユーティリティ3 CD 1枚 |
| ● 目隠しシール 1枚 | ● USBユーティリティ3・セットアップガイド 1冊 |
| ● リモート・コマンダー RC-140 1個 | |

ご注意

- ①本書の内容の一部または全部を無断で複製・転載・改題することはおやめください。
- ②本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- ③本書に、ご不明な点、誤り、記載もれ、乱丁、落丁などがありましたら弊社までご連絡ください。

目次

付属品をご確認ください……………表紙裏頁

1. 安全上必ずお守りください ……………	2	4. 接続図 ……………	13
△警告……………	2	5. リモート・コントロール ……………	14
お使いになる前に……………	2	6. ご使用方法 ……………	15～23
△注意／快適にお使いいただくために／お手入れ……………	3	6.1 基本的な演奏 ……………	15
接続上の注意……………	4	6.2 ディスプレイ部の表示 ……………	16
本機の録音について……………	4	STOP中の表示……………	16
本機で再生できないディスク……………	4	PLAY中の表示……………	16
本機で再生できるディスク……………	5	サンプリング周波数とビット数の表示……………	17
HS-LINKについて……………	5	6.3 指定した曲から演奏 ……………	18
2. 各部の名前 ……………	6,7	6.4 曲の途中から演奏 ……………	19
2.1 フロントパネル、11 ディスプレイ部 ……………	6	6.5 リピート演奏 ……………	19
2.2 リモート・コマンダー RC-140の機能 ……………	7	6.6 プログラム演奏 ……………	20
2.3 リアパネル ……………	7	プログラム演奏を行うには……………	20
3. 各部の動作説明 ……………	8～12	プログラム内容を確認するには……………	20
3.1 フロントパネル ……………	8,9	表示を切り替えるには……………	21
1 電源スイッチ……………	8	通常の演奏に戻すには……………	21
2 SA-CD/CDボタン……………	8	6.7 データ・ディスクの演奏 ……………	22
3 INPUTボタン……………	8	再生できるファイルの仕様……………	22
4 ディスク・トレイ……………	8	再生可能な最大ファイル数とフォルダ数……………	22
5 ▲ OPEN/CLOSE ボタン……………	9	ファイルの再生順番について……………	22
6 ▶ PLAY ボタン……………	9	フォルダとファイルの構成……………	23
7 PAUSE ボタン……………	9	再生方法について……………	23
8 ◀◀ BACK / NEXT ▶▶ ボタン……………	9	表示について……………	23
9 ■ STOP ボタン……………	9	DSDディスクについて……………	23
10 リモート・センサー……………	9	7. 機能設定・セッティング・モード ……………	24
11 ディスプレイ部……………	9	8. デジタル端子の活用方法 ……………	25～28
3.2 リモート・コマンダー RC-140 ……………	10	8.1 デジタル信号を入力して演奏する場合 ……………	25
12 出力レベル調整ボタン……………	10	8.2 デジタル・レコーダーで録音・再生をする場合 ……………	26
13 選曲ボタン……………	10	8.3 ヴォイシング・イコライザーを	
14 REPEAT ボタン……………	10	デジタル信号で接続する場合……………	27
15 TIME ボタン……………	10	8.4 HS-LINKケーブルについて ……………	28
16 PROGRAM/CLEARボタン……………	10	9. 保証特性 ……………	29
3.3 リアパネル ……………	11,12	10. 特性グラフ ……………	30
17 デジタル入力端子……………	11	11. ブロック・ダイアグラム ……………	31
18 アナログ出力端子……………	11	12. 故障かな?と思われるときは ……………	32
19 トランスポート出力端子……………	11	13. アフターサービスについて ……………	33
20 極性切替スイッチ……………	12		
21 AC電源コネクター……………	12		

安全上必ず
お守りください

各部の名前

各部の
動作説明接
続
図リモート・
コントロール

ご使用方法

機能設定・
セッティングモードデジタル端子
の活用方法

保証特性

特性グラフ

ブロック・
ダイアグラム故障かな?と
思われるときはアフターサービス
について

1. 安全上必ずお守りください

ご使用前にこの『取扱説明書』と別冊の『安全上のご注意』を良くお読みの上、製品を安全にお使いください。



警告

■電源は必ずAC(交流)100V、50Hz/60Hzを使用する。

- AC100V(50Hz/60Hz)以外で使用すると、感電や火災の原因となります。

■電源コードは取り扱いを誤ると、感電や火災の原因となり危険です。

- 付属または当社指定の電源コード以外は絶対に使用しない。
- めれた手で電源プラグを絶対に触らない。
- 電源コードの上に重い物をのせたり、本機の下敷きにしたりしない。
- 電源コードが傷んだら、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。

■密閉されたラック等には絶対に設置しない。

- 通風が悪いと機器の温度が上がり、火災や故障の原因となります。

■放熱のため製品の周辺は他の機器や壁等から充分間隔(10cm以上)をとる。

■機器の上に水などの入った容器(花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など)、新聞紙、テーブルクロスなどを置かない。

■火災又は感電を防止するために、雨がかかる場所又は湿気のある場所では絶対使用しない。

■キャビネット(天板)やボトムプレート(底板)は絶対にはずさない。

- 内部に手などで触れると感電や故障の原因となり、大変危険です。

■脚の交換は危険ですから行わない。

- 取り付けネジが内部の部品に触れると、火災や感電、故障の原因になります。

■次の場合には本体の電源スイッチを切り、必ず電源コードをコンセントから抜く。安全を確認後、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。

- 製品に水や薬品などの液体がかかった場合。
- 内部に異物(燃えやすい物やヘアピン、釘、硬貨など)が入った場合。
- 故障や異常(発煙やにおいなど)と思われる場合。
- 落としたり、破損したりした場合。

* 上記の各項目に対して、電源スイッチをOFFにただけでは、本機への電源供給が完全に遮断されません。そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。必ず電源コードをコンセントから抜いてください。

* 万一の場合、電源コードをコンセントから容易に外せるように、コードの引き回しやコンセント周りの環境を整えてください。

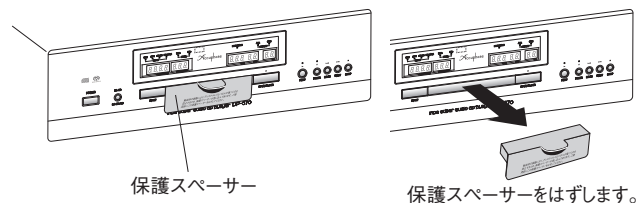
■入・出力端子や、AC電源コネクター、電源プラグには接点復活剤や導電剤などは絶対に使用しない。

樹脂部が経年劣化で破損したり、端子部がショートをおこしたりして、感電や火災あるいは故障の原因になる事があります。

(接点復活剤、導電剤使用による不具合は保証外となります。)

お使いになる前に

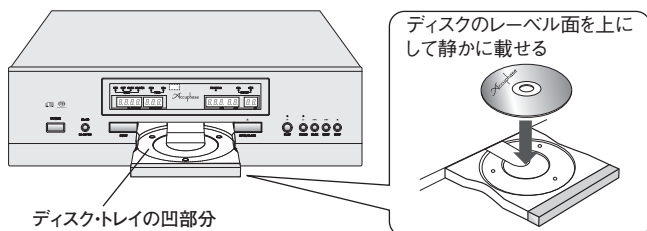
輸送時の振動により、ディスク・トレイとパネルが傷つくのを防止するため、保護スペーサーが差し込んであります。ご使用前にこの保護スペーサーをはずしてください。



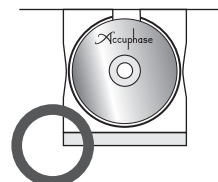
※アフターサービス等の輸送時にも使用しますので、はずした保護スペーサーは保管しておいてください。

ディスクがはみ出さないことを確認してトレイを閉じます

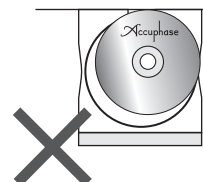
ディスク・トレイの円形のくぼみ(凹)部分から《はみ出さない》ように、ディスクを中央に押しつけず静かに載せてください。



トレイ円形凹部分から《はみ出ない》ように中央に載せる。



トレイ円形凹部分から《乗り上げ》ないように注意する。



- 凹部分から《はみ出して》載せると、ディスクに傷を付ける恐れがあります。
- ディスクを凹部分から《はみ出して》、乗り上げた状態のままトレイを閉じると、挿入口で噛み合い、トレイが途中で動かなくなる恐れがあります。

注意

◆ディスク・トレイとフロントパネルの間に指が挟まれないように十分注意する。

ディスク・トレイ中央の穴に指を入れた状態でディスク・トレイを閉めると、フロントパネルとディスク・トレイの間に指が挟まり、けがをする恐れがあります。

- ディスク・トレイに異物を挟まない。
故障の原因となります。
- 次のような場所には設置しない。
故障や事故の原因となります。
 - 通風が悪い場所
 - 湿度の高い場所
 - 埃の多い場所
 - 直射日光の当たる場所
 - 暖房器具の近くなど温度の高い場所
 - 極端に温度の低い場所
 - 振動のある場所
 - 傾斜のある場所
 - 不安定な場所
- パワーアンプなど他の機器に直接重ねて設置しない。
故障の原因となります。
- チューナーやテレビ、DVDレコーダー等から離して設置する。
近くに置くと雑音や映像の乱れが生じることがあります。(特に室内アンテナの場合はご注意ください。)
アンテナ線と本機の電源コードや入・出力ケーブルを離して設置してください。

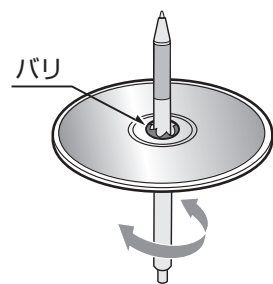
- 市販のレンズ・クリーナーを使用しない。
故障の原因となります。本機は埃が入り難い構造になっておりますので、レンズ・クリーナーの使用は推奨しておりません。
- レーザー光源をのぞき込まない。
視力障害の原因となります。
- 入・出力コードを接続する場合は、必ず各機器の電源を切ってから行なう。
ライン・ケーブルのプラグを抜き差しするときは、一瞬GND側が浮いた状態になるため、大きなショック・ノイズを発生し、スピーカーを破損する恐れがあります。
- 電源スイッチは、各機器が正しく接続されてから入れる。
故障の原因となります。
- 電源スイッチを切ってから、10秒以内に再びONしない。
ノイズ発生などの原因となることがあります。
- 長期間使用しないときは、安全のために電源プラグをコンセントから抜く。
- 演奏の前にボリュームを絞っておく。
不用意にボリュームを上げると、思わぬ大音量でアンプやスピーカーを破損することがあります。
- HS-LINKは当社製のHS-LINKケーブルで接続する。
故障の原因となります。
- HS-LINKはPCのLAN等に接続しない。
LAN等に接続すると、それぞれの機器やシステムが破損するおそれがあります。
- 室温35℃以下で使用する。

快適にお使いいただくために

- CCCDの再生は、動作・音質を保証できません。
 - コピー・コントロールCD (CCCD) など『著作権保護技術付音楽ディスク』は、現在のCD規格に準拠していない特殊ディスクのため、当社のCD再生機器による再生の動作・音質は保証できません。
 - CCCD等の詳細につきましては、ディスクの発売元にお問い合わせください。
- 光学系ピックアップの結露について
冬期、暖房で暖められた部屋の窓ガラスに水滴が付くように、CDプレーヤーでも以下の環境でピックアップ・レンズが結露し、本来の読み取りが行えず、正常に動作しないことがあります。
 - ストープなどの暖房器具を点けた直後
 - 本機を湿度が非常に高い部屋に置いた場合
 - 冷房や屋外で冷えた本機を、急に暖かい部屋に持ち込んだ場合
 このような場合には、電源を入れてディスクを取り出し、1時間ほど経過すると結露は自然になくなり、正常に動作します。
- CD-Rなど表面に印刷可能な加工処理が施されているディスクについて
本体内部に貼り付き、取り出しができなくなる事があります。
- ディスクへのラベル貼付について
故障の原因となりますので、ディスクにはラベルを貼らないでください。

■ バリの残っているディスクの再生について

ディスクのセンターホールにはバリ(右図参照)が残っていることがあります。このようなディスクは再生しなかったり、音飛びが起きたりする場合がありますので、バリを細い棒状のもの(プラスチック製のボールペンなど)で取り除いてから再生してください。



■ ディスクの取り扱いについて

- 直射日光が当たる場所や、高温多湿の場所には置かないでください。
- 演奏終了後は、ホコリ、キズを避けるため、必ずケースに入れて保管してください。
- レーベル面の反対側が信号読み取り面ですので、手で触れないようにしてください。指紋やホコリなどの汚れは音質劣化の原因となります。
- ディスクのお手入れは、柔らかい布で内側中心から外側へ軽く拭くようにしてください。
- ベンジン、レコードクリーナー、静電防止剤などは、ディスクを傷めますので使わないでください。

お手入れ

- お手入れの場合は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 本体のホコリやゴミ、指紋等汚れの拭き取りには「柔らかい布」を使用してください。
- ベンジン、シンナー、油、ワックス等を使用してお手入れは、表面を変色させたり、傷つけたりしますので使わないでください。
- ディスク・トレイ内のお手入れにアルコール類を使用しないでください。アルコールで拭くとディスク・クッション(3個)が剥れディスクを傷つけるおそれがあります。

接続上の注意

本機は一体型SA-CD/CDプレーヤーですが、トランスポート部とプロセッサ部を分離することができ、それぞれを単独で利用できる入出力端子を装備しています。

■本機をSA-CD/CDトランスポートとして使用する場合

……『TRANSPORT OUTPUTS』端子から出力。

- CD信号のデジタル録音用として、デジタル・レコーダーと接続します。
(26ページ)

メモ

HS-LINK端子からは、SA-CD/CDのデジタル信号が出力されます。また、COAXIAL/OPTICAL端子からは、CDのデジタル信号のみ出力されます。

■本機のデジタル・プロセッサ部を使用する場合

……『DIGITAL INPUTS』端子に外部信号を入力。

- デジタル機器の再生用として使用します。
(25ページ)
- デジタル・レコーダーの再生用として使用します。
(26ページ)

■本機とヴォイシング・イコライザーをデジタル信号で接続する場合

(27ページ)

本機の録音について

SA-CDのデジタル録音

著作権保護のため、SA-CDのデジタル録音はできません。

SA-CDのアナログ録音

本機をアナログ・プリアンプに接続後、プリアンプまたはプリメイン・アンプのREC端子から録音します。

CDのデジタル録音

『TRANSPORT OUTPUTS』端子のCOAXIAL/OPTICAL端子とデジタル・レコーダーを接続します。(26ページ)

- * HS-LINKからのCDデジタル信号は録音できません。
- * デジタル録音は、SCMS(シリアル・コピー・マネージメント・システム)により第1世代だけになります。
- * CD-R/RWをご使用の場合には、音楽用CD-R/RWをご使用ください。

メモ

入力切替ボタンでプロセッサ外部入力に切り替えても、本機のCDトランスポート動作は継続していますから、そのままCD録音が可能です。

CDのアナログ録音

本機をアナログ・プリアンプまたはプリメイン・アンプに接続後、アンプのREC端子から録音します。

本機で再生できないディスク

- CD-ROM
- DVD
- SA-CD-Multi
- DVD-Audio
- dts-CD
- MP-3
- Blu-ray
- 8cm CD

- * 誤って使用するとノイズを発生する場合があります。
- * CD EXTRA, CD-R/-RW, DVD-R/-RW/+R/+RWなどは録音・記録状態によっては正常な動作をしないときがあります。

注意

■マルチチャンネルSA-CD(SA-CD-Multi)について

- 「2チャンネル+マルチチャンネル」ディスクの場合、2チャンネル・エリアは再生できますが、マルチチャンネル・エリアは再生できません。
- 2チャンネル・エリアがない、「マルチチャンネルのみのSA-CD」(規格外ディスク)が存在します。このディスクは再生できません。

本機で再生できるディスク

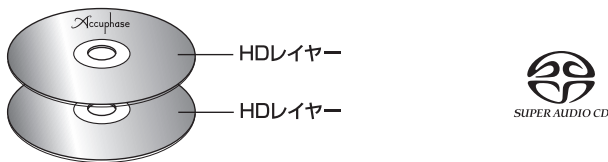
■本機で再生できるのは、SA-CDおよびCDの標準規格に合致したディスクだけになります。再生については、音楽ディスク・パッケージの表示をよくお読みください。

SA-CD : シングルレイヤー・ディスク



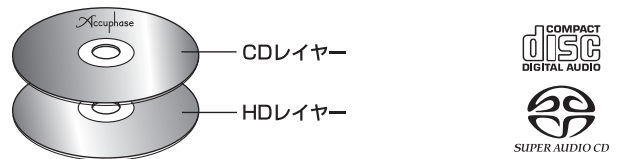
- HD (ハイデンシティ) レイヤー単層のSA-CDです。
- HDレイヤーは、SA-CD用の高密度信号層です。

SA-CD : デュアルレイヤー・ディスク



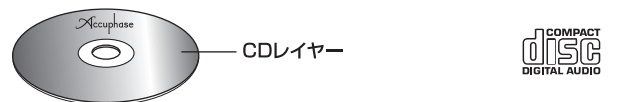
- HDレイヤーが2層になっているディスクで、長時間再生が可能なSA-CDです。
- 片面2層構造のため、再生時裏返す必要はありません。

SA-CD+CD : ハイブリッド・ディスク



- HDレイヤーとCDレイヤーが2層になっているディスクです。
- ディスク挿入後、HDレイヤーが優先的に選択されます。CDレイヤーを再生する時は、SA-CD/CDボタンを押して、希望の層を選択します。
- 片面2層構造のため、再生時裏返す必要はありません。
- CDレイヤーは、通常のCDプレーヤーでも再生することができます。

CD



- 従来フォーマットのCDです。



データ・ディスク (DSDディスクを含む) 22ページ参照



HS-LINK について

HS-LINKには2つの規格 (Ver.1 / Ver.2) があります。Ver.2はサンプリング周波数とビット数を拡張したVer.1の上位規格です。HS-LINKの切り替えについては“機能設定：セッティング・モード” (24ページ) をご参照ください。

HS-LINK	対応機種	接続ケーブル
Ver.1	HS-LINK を搭載した全ての機種 (下記 Ver.2 対応機種を含む)	HS-LINK ケーブル
Ver.2	DP-1000 / DC-1000 / DP-950 / DC-950 / DP-750 / DP-570 / DP-560 / DC-37 / DF-65 / DG-68	

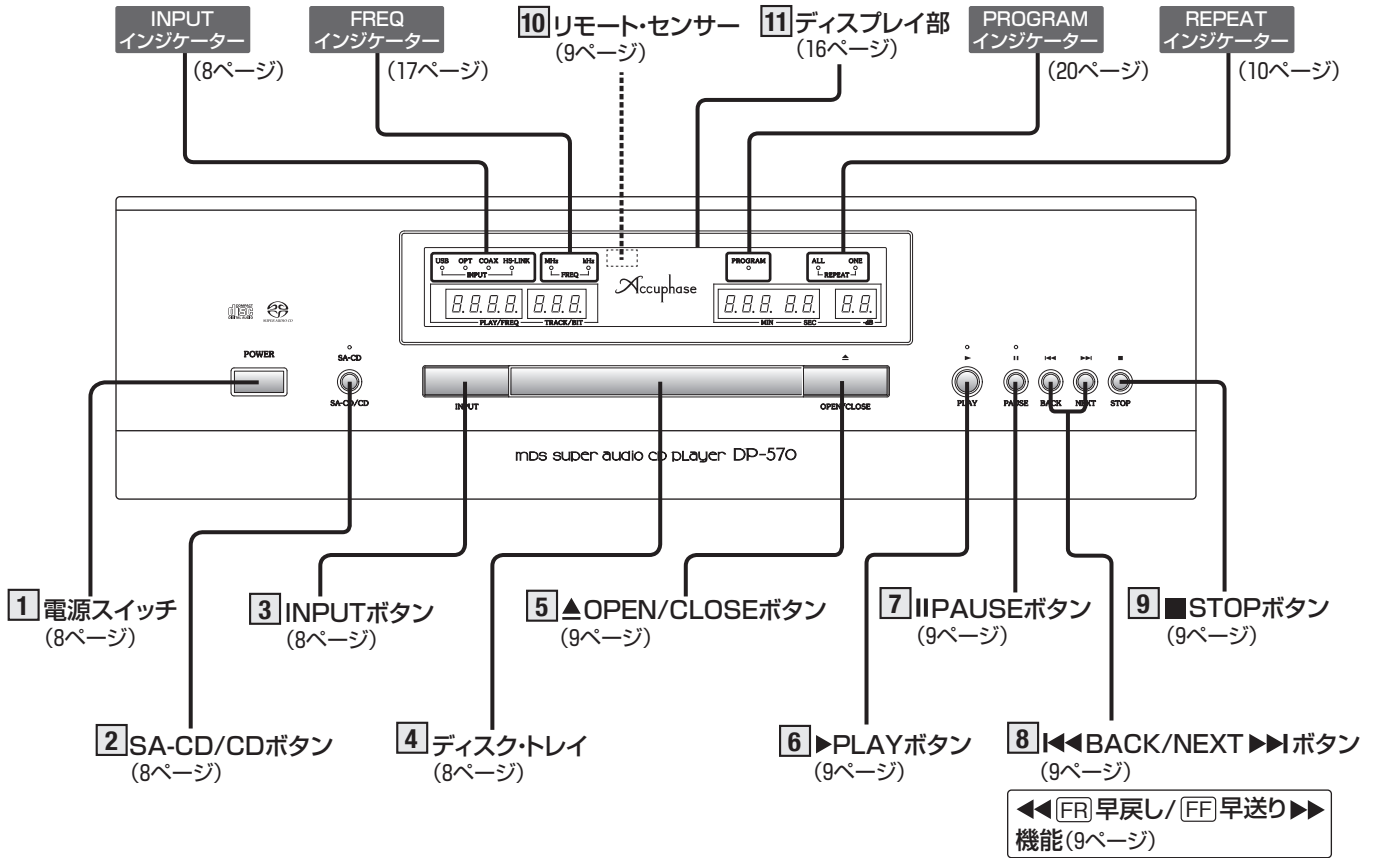
HS-LINK	フォーマット (2ch)	サンプリング周波数	ビット数
Ver.1	DSD	2.8MHz	1
	PCM	32 / 44.1 / 48 / 88.2 / 96 / 176.4 / 192kHz	16 ~ 24
Ver.2	DSD	2.8 / 5.6MHz	1
	PCM	32 / 44.1 / 48 / 88.2 / 96 / 176.4 / 192 / 352.8 / 384kHz	16 ~ 32

HS-LINKはアキュフェーズ株式会社の登録商標です。

2. 各部の名前

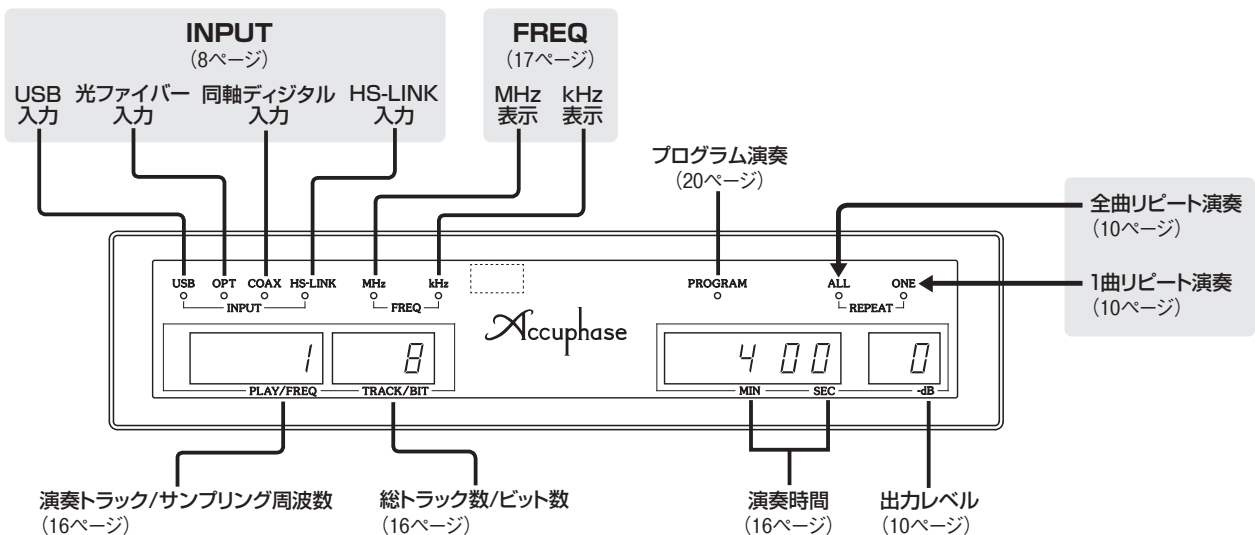
詳しい説明は、各項目()内のページを参照してください。

2.1 フロントパネル



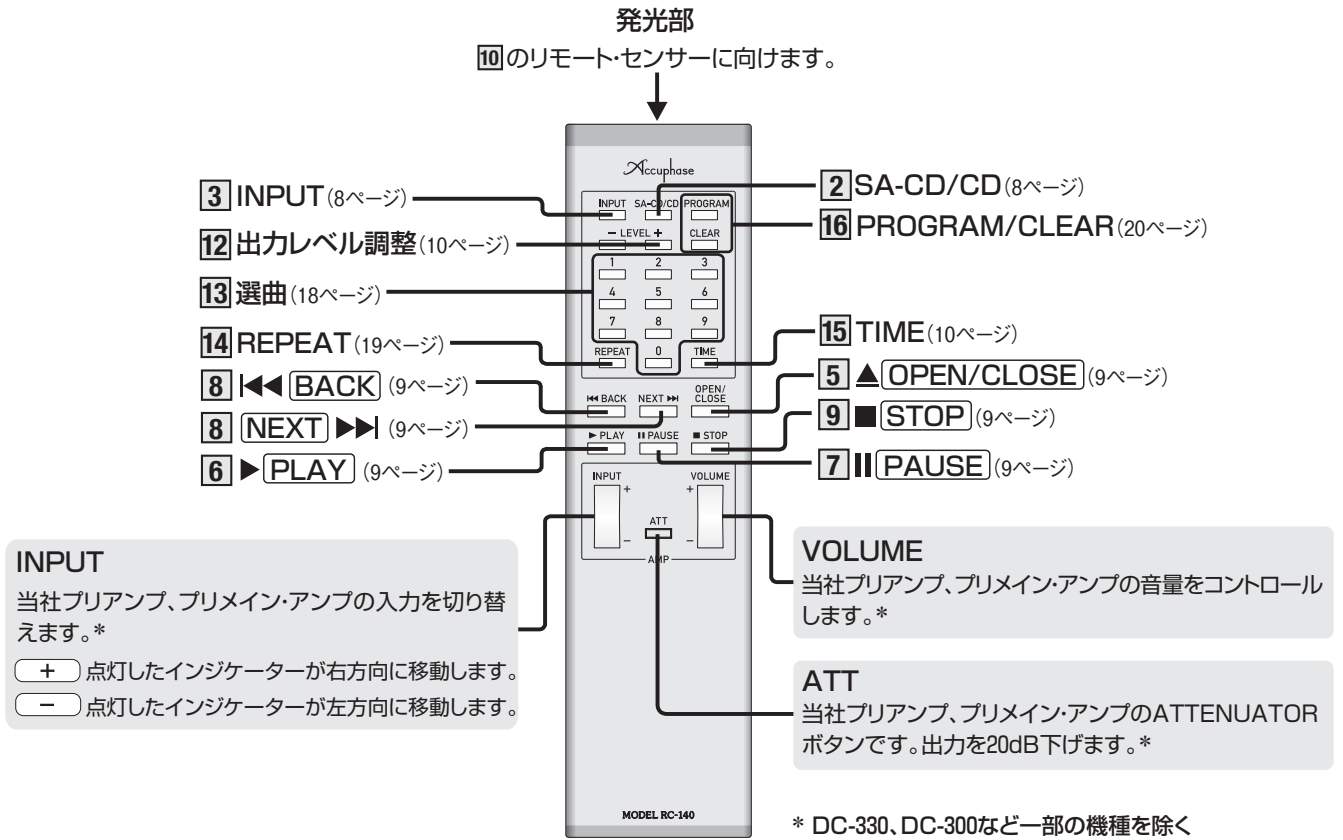
11 ディスプレイ部

ディスプレイ部は本機の動作状態を表示します。

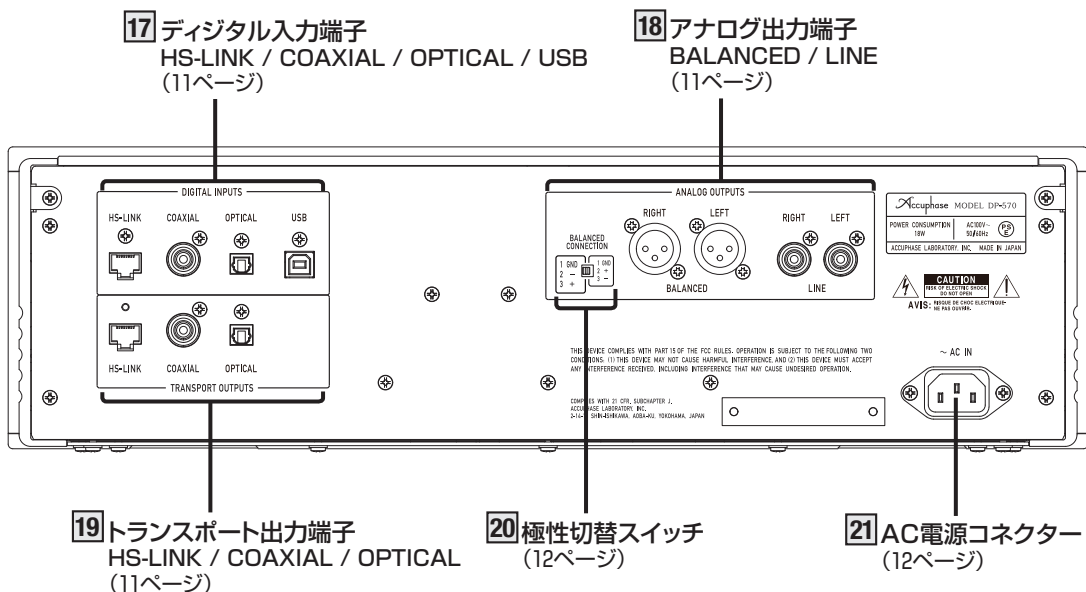


2.2 リモート・コマンダー RC-140の機能

(ご使用方法は14, 15ページ参照)



2.3 リアパネル



3. 各部の動作説明

- 詳しい使用方法は()内のページを参照してください。
- 本説明書では、「トラック」と「曲」を同義で扱っています。

3.1 フロントパネル

1 電源スイッチ

電源を入れる

スイッチを押すと電源が入ります。スイッチ：

- 電源を入れると左ディスプレイの数字が点滅し約10秒間内部のセットアップを行います。

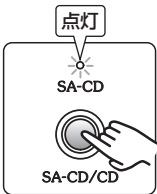


電源を切る

再びスイッチを押すと電源が切れます。スイッチ：

- 電源を切った後、10秒以内に再び電源を入れなくてください。ノイズ発生などの原因となることがあります。

2 SA-CD/CDボタン



ハイブリッド・ディスクの場合、SA-CDかCDの選択ができます。押すたびに、《SA-CD》と《CD》が切り替わり、《SA-CD》を選択するとLEDが点灯します。

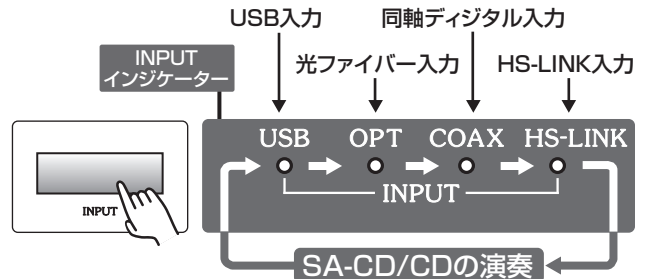
ハイブリッド・ディスク

- ハイブリッド・ディスクを入れると、SA-CDを優先して選択(演奏)します。(LED点灯)
- CDを選択するときはボタンを押します。(LED消灯)
- 演奏中またはPAUSE中に切り替えると、その曲の先頭から再生します。
- TOCの読み込み中は、切り替えができません。

SA-CD専用ディスク

- 演奏中にこのボタンを押すと演奏を止めて、STOP状態になります。

3 INPUTボタン (25～27ページ)



本機は17デジタル入力信号(USB、OPTICAL、COAXIAL、HS-LINK)をアナログ信号へ変換し、18アナログ出力端子から出力することができます。

このボタンはSA-CD/CDの演奏から17デジタル入力信号に切り替えるためのボタンです。

インジケータを確認しながら入力信号を選択します。

インジケータが全て消灯していればSA-CD/CDを演奏します。

選択した入力に関係なく、19トランスポート出力からは常にSA-CDまたはCDの信号を出力します。

4 ディスク・トレイ (15ページ)

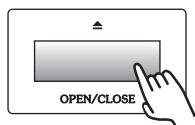
トレイを開く

- 5 ▲ [OPEN/CLOSE] ボタンを押すと開きます。

トレイを閉じる

- 5 ▲ [OPEN/CLOSE] ボタンを押すと閉じます。ディスクがある場合は停止(STOP)状態になります。
- ディスク・トレイ前面を軽く押すと閉じます。ディスクがある場合は自動的に演奏を開始します。
- 6 ▶ [PLAY] ボタンを押すと自動的に閉じます。ディスクがある場合は演奏を開始(PLAY)します。
- 7 || [PAUSE] ボタンを押すと自動的に閉じます。ディスクがある場合は1曲目の演奏開始待ち(PAUSE)状態になります。

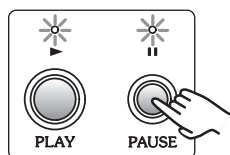
注意：トレイを出した状態で電源をOFFした場合、再び電源を入れるとトレイが閉まりますのでディスクを挟まないようにご注意ください。

5 ▲ **OPEN/CLOSE** ボタン (15ページ)

ディスク・トレイを開閉させるためのボタンです。

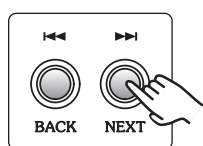
6 ▶ **PLAY** ボタン (15ページ)

演奏を開始させるためのボタンです。
PAUSE中に押すと演奏を再開します。

7 || **PAUSE** ボタン (15ページ)

PLAY中 演奏を一時停止します。

PAUSE中 演奏を再開します。

8 ◀◀ **BACK** / **NEXT** ▶▶ ボタン (15ページ)

演奏トラックの変更や、早戻し/早送りを
行うためのボタンです。

◀◀ BACK

1回押すとそのトラックの先頭に戻ります。続けて押すと順次、前のトラックの先頭へジャンプします。

NEXT ▶▶

1回押すと次のトラックの先頭へジャンプします。続けて押すと順次、次のトラックの先頭へジャンプします。

演奏中に0.5秒以上押し続けると

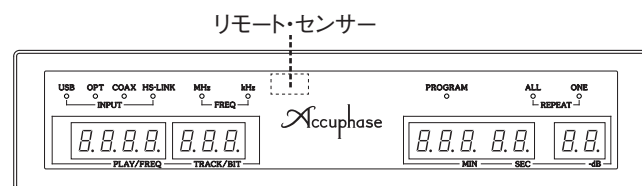
演奏している曲内での◀◀ **(FR)** (早戻し) / **(FF)** (早送り)
▶▶動作となります。

9 ■ **STOP** ボタン (15ページ)

演奏を停止させるためのボタンです。

10 **リモート・センサー** (14ページ)

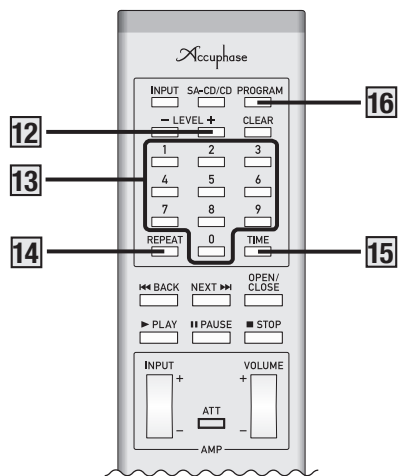
リモート・コマンダー RC-140の赤外線信号の受光部です。

**11** **ディスプレイ部** (6ページ)

本機の動作状態を表示します。

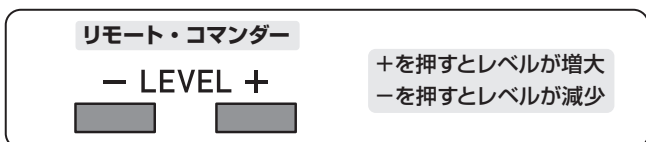
表示例については16ページをご参照ください。

3.2 リモート・コマンダー RC-140



12 出力レベル調整ボタン

アナログ出力のレベルを調整します。
1dBステップで0dB～-80dBの可変ができます。通常は0dBで使用します。
出力レベルを絞り切ることはできません。
他のプレーヤーとのレベルの違いを調整するときなどに、ご使用いただけます。



13 選曲ボタン (18ページ)

トラック番号を選択するためのボタンです。
ご使用方法については、18ページをご参照ください。

14 REPEATボタン (19ページ)

リピート演奏を行うためのボタンです。
リピート演奏については、19ページをご参照ください。

15 TIMEボタン (表示例は16ページ)

押すたびに、
 曲中経過時間 → 曲中残量時間 → トータル経過時間 →
 トータル残量時間 → サンプリング周波数
 を繰り返し表示します。
 データ・ディスクでは 曲中経過時間 ↔ サンプリング周波数
 のみの切り替えになります。

16 PROGRAM/CLEARボタン

プログラム演奏のためのボタンです。
プログラム演奏については20ページをご参照ください。

3.3 リアパネル

17 デジタル入力端子 (13ページ)

デジタル信号を入力するための端子です。

接続ケーブル

端子	ケーブル
HS-LINK	HS-LINKケーブル
USB	USB2.0タイプBコネクタ付ケーブル
OPTICAL	光ファイバーケーブル(JEITA規格)
COAXIAL	75Ω同軸デジタルケーブル

サンプリング周波数/ビット数

入力	フォーマット (2ch)	サンプリング周波数	ビット数
HS-LINK (*1)	Ver.1	DSD	2.8MHz / 1
		PCM	32 / 44.1 / 48 / 88.2 / 96 / 176.4 / 192kHz / 16~24
	Ver.2	DSD	2.8 / 5.6MHz / 1
		PCM	32 / 44.1 / 48 / 88.2 / 96 / 176.4 / 192 / 352.8 / 384kHz / 16~32
USB (*2)	DSD	2.8 / 5.6 / 11.2MHz (11.2MHz : ASIOのみ) / 1	
	PCM	32 / 44.1 / 48 / 88.2 / 96 / 176.4 / 192 / 352.8 / 384kHz / 16~32	
OPTICAL	PCM	32 / 44.1 / 48 / 88.2 / 96kHz / 16~24	
COAXIAL	PCM	32 / 44.1 / 48 / 88.2 / 96 / 176.4 / 192kHz / 16~24	

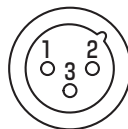
(*1) Ver.1とVer.2は入力信号に応じて自動的に切り替わります。

(*2) USB端子を使用するにはパソコンにUSBドライバソフトをインストールする必要があります。

詳細は別冊のUSBユーティリティ3・セットアップガイドをご覧ください。

18 アナログ出力端子 (13ページ)

アナログ信号を出力するためのバランス/ライン出力端子です。



1	GND
2	-
3	+

バランス出力端子のピンの極性

メモ

バランス出力端子の極性は **20** 極性切替スイッチで切り替えることができます。

バランスケーブルは当社で販売しております。

19 トランスポート出力端子 (13ページ)

本機のSA-CD/CDトランスポート部のデジタル信号を出力するための端子です。

HS-LINK (RJ-45) : SA-CD/CDデジタル出力端子

HS-LINKを装備しているデジタル・プロセッサ等と、付属のHS-LINKケーブルで接続します。

2 SA-CD/CDボタンで選択したSA-CDまたはCDのデジタル信号を出力します。

接続機器に応じて出力フォーマットをHS-LINK Ver.1またはVer.2に切り替えることができます。

(切り替え方法は24ページ参照、HS-LINK Ver.2については5ページ参照)

COAXIAL (同軸) : CD専用デジタル出力端子

CD専用の同軸デジタル出力端子です。

75Ω同軸ケーブルでデジタル・プロセッサ等と接続します。

OPTICAL (光ファイバー) : CD専用光ファイバー・デジタル出力端子

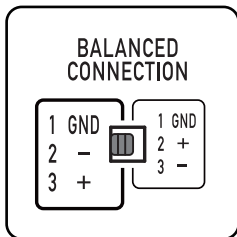
CD専用の光ファイバー・デジタル出力端子です。

光ファイバーでデジタル・プロセッサ等と接続します。

注意

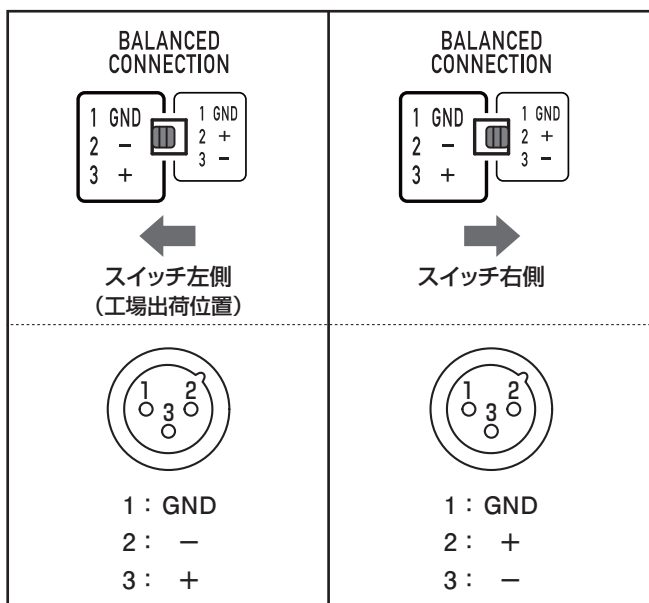
- SA-CDデジタル信号は、トランスポート出力端子のHS-LINKのみから出力され、COAXIAL/OPTICAL端子からは出力されません。
- 入力セレクターでプロセッサ動作に切り替えても本機のトランスポート動作は継続しますので、CD録音はそのまま可能です。**3** INPUTボタンで選択した入力に関係なく、トランスポート出力からは常にSA-CDまたはCDの信号を出力します

20 極性切替スイッチ



18 アナログ・バランス出力端子の極性を切り替えるためのスイッチです。

当社製品（一部のプロ機器を除く）と接続する場合は、スイッチを左側（工場出荷位置）のままご使用ください。接続する機器の極性が本機と異なる場合は、スイッチを右側にしてください。ただし、極性は必ずしも合わせる必要はありません。合わせなくても演奏は可能です。



21 AC電源コネクター

付属の電源コードを接続します。



電源は必ずAC100V家庭用コンセントを使用する。

■電源コードに付いているアース線の接続

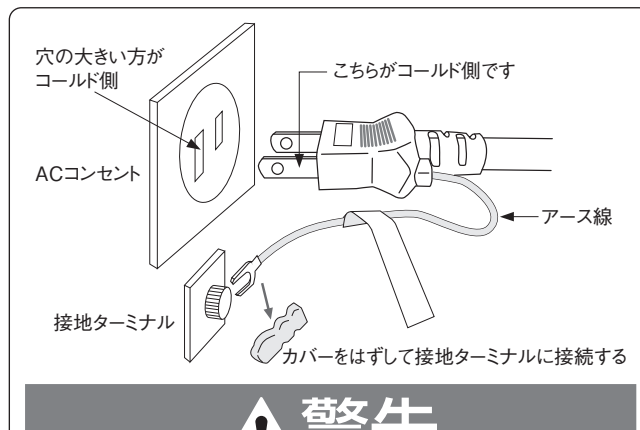
付属の電源コードには、プラグ側に接地用アース線が付いています。感電防止のため、このアース線を接地用ターミナルに接続すると、より一層安全になります。

接地ターミナルの工事は、電気工事店にご相談ください。

■入・出力端子や、AC電源コネクター、電源プラグには接点復活剤や導電剤などは絶対に使用しない。

経年劣化による樹脂部の破損や、端子部のショートにより、感電や火災あるいは故障の原因になることがあります。

（接点復活剤、導電剤使用による不具合は保証外となります。）



アース線の接地用ターミナルへの接続は、必ずプラグをコンセントにつなぐ前に行ってください。また、アース線を外すときは必ずプラグをコンセントから抜いてから行ってください。

■電源コードの極性表示

本機は、トランスの巻き方向、部品の配線など極性を管理して、電源プラグのアース線が出ている方がコールド側になっています。機器の接続を統一したい場合は参考にしてください。

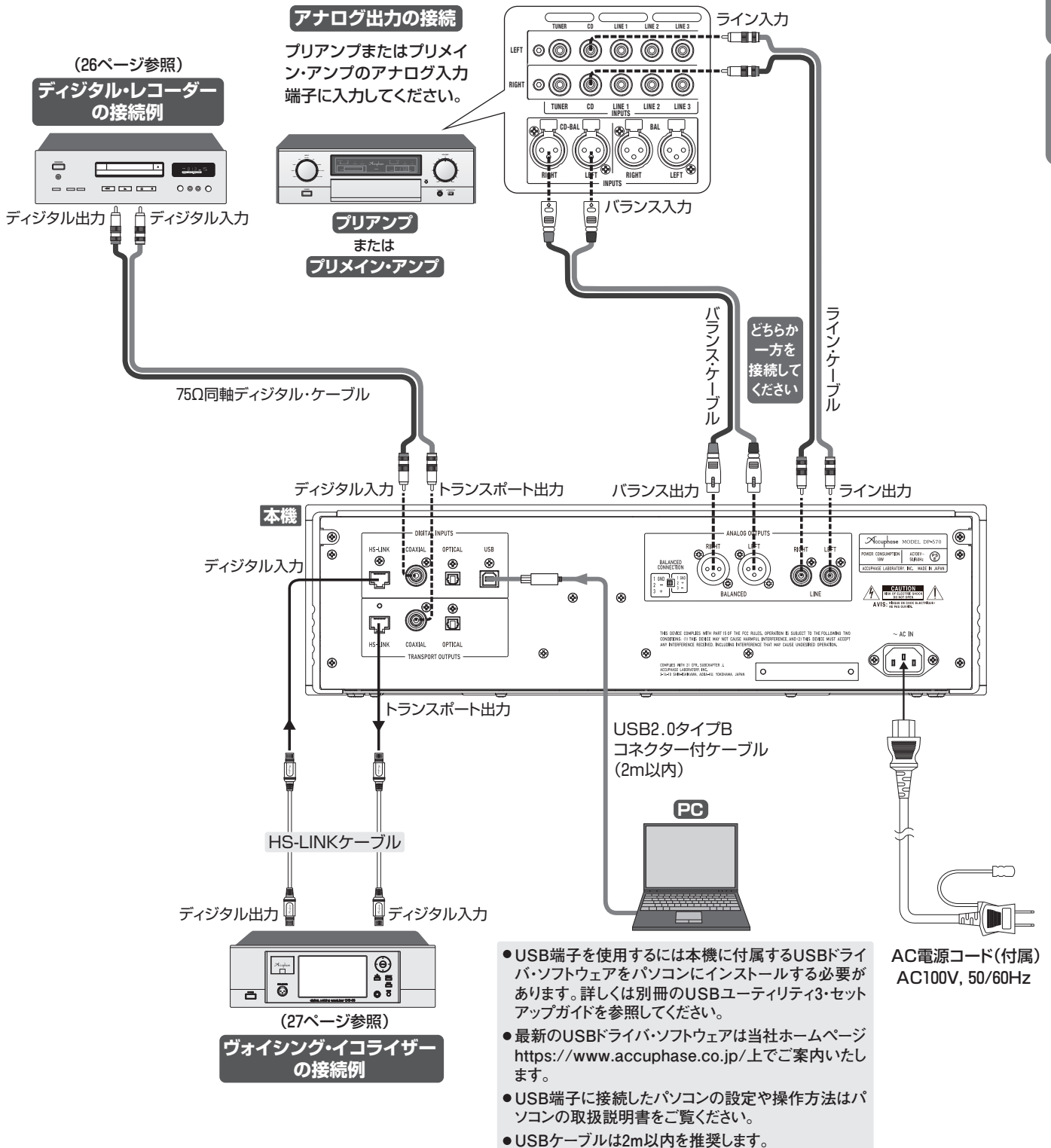
◆注意

- 室内コンセントの極性は一般に、向かって左側（穴が右に比べて大きい）がコールド側です。
- 大地に対する電位は屋内配線の状況によって変化します。このためチェッカーなどを使用して測定した場合、電位が逆表示することがあります。

4. 接続図

注意：接続するときは、必ず各機器の電源を切る。

- 注意**
- アナログ出力の接続はオーディオケーブルを使用し、LEFT/RIGHTを正しく接続してください。
 - バランスケーブルとラインケーブルは同じ機器に同時に接続して使用しないでください。アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。
 - DAC内蔵アンプ(デジタル入力用のオプションを増設したアンプ等)に、デジタル同軸出力とアナログ出力を同時に接続しないでください。



5. リモート・コントロール

ご使用方法

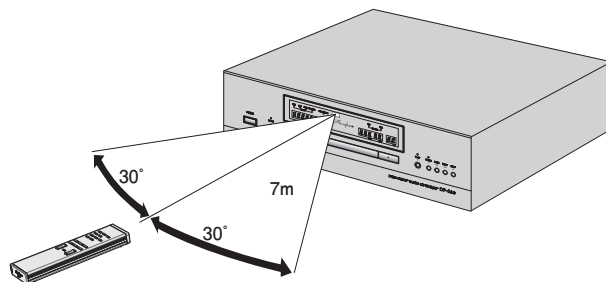
リモート・コマンドの発光部を本体の⑩リモート・センサーに向けて、図の範囲内でご使用ください。

乾電池について

■乾電池の交換時期

操作距離が短くなってきたら乾電池の交換時期ですので、新しい乾電池と交換してください。

- 使用する乾電池は、単3形を2個、両方とも新しい乾電池に交換してください。
- 乾電池を廃棄する場合は、法律、条例などで定められた方法にしたがってください。



警告

- 乾電池は充電しない。電池の破裂や、液漏れにより、火災やけがの原因となります。
- 電池ケースの電極部に金属類が触れないようにする。

注意

■乾電池について

乾電池は正しく使わないと、液漏れや破裂などの危険があります。

- 乾電池の向きは電池ケースに示されている通り、⊕（プラス）、⊖（マイナス）を正しく合わせる。
- 新しい乾電池と、1度使用したものを混ぜない。
- 種類の違う乾電池を混ぜて使用しない。同じ形状でも、性能の異なるものがあります。
- 長時間にわたりコマンドを使わないときは、乾電池を抜いておく。
- 万一、液漏れを起こしたときは、当社品質保証部にご連絡ください。漏れた液体が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

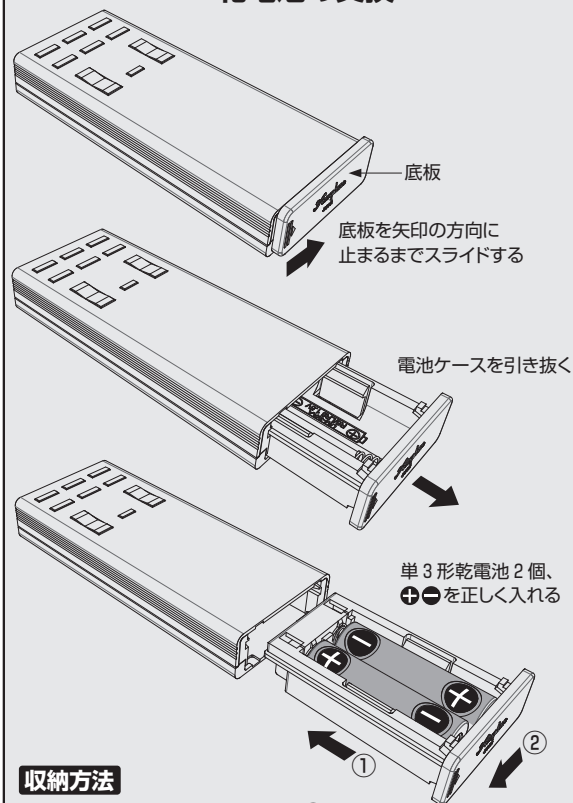
■テレビやインバーター照明等の近くに設置した場合、リモコンの動作が不安定になることがあります。故障ではありません。置く向きを変えたり、お互いに離したりしてお使いください。

■リモコンを落としたり、液体をこぼしたりしないようにしてください。

■直射日光の当たる所や暖房器具のそばなど、温度や湿度の高い場所に置かないようにしてください。

■電池の消耗を早めますので、リモコンの上に物を置いて、ボタンが押されたままの状態にしないでください。

乾電池の交換



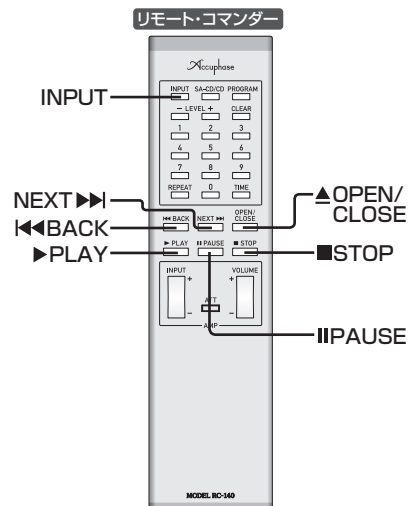
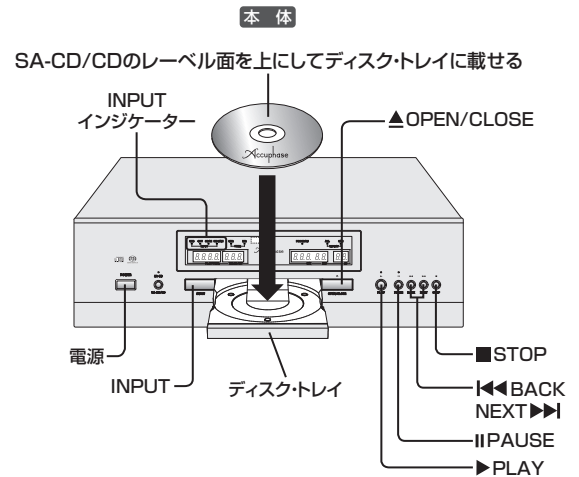
収納方法

電池ケースをしっかり押し込んで①
底板を矢印方向にスライドして収納する②

6. ご使用方法

6.1 基本的な演奏

- 1 電源スイッチを押し、電源を入れます。
- 2 INPUTインジケータにUSB, OPT, COAX, HS-LINKのLEDが点灯している場合には、表示が消えるまで **INPUT** ボタンを押します。(8ページ参照)
- 3 ▲ **OPEN/CLOSE** ボタンを押して、ディスクトレイを開きます。
- 4 レーベル面を上にして、ディスクをディスクトレイに載せます。
- 5 ▶ **PLAY** ボタンを押すとディスクトレイが閉じて、第1曲目から演奏がはじまります。
- 6 最終トラックの演奏が終了すると、STOP状態になります。
- 7 ▲ **OPEN/CLOSE** ボタンを押して、ディスクトレイを開きディスクを取り出します。ディスクを取り出した後、ディスクトレイは必ず閉じておきます。



ボタン	動作
▶ PLAY	STOP状態 ⇨ 演奏開始
	PAUSE状態 ⇨ 演奏再開
■ STOP	演奏停止
PAUSE	PLAY状態 ⇨ 一時停止
	PAUSE状態 ⇨ 演奏再開
NEXT ▶▶	次の曲へ進む
◀◀ BACK	演奏中または前の曲へ戻る
▲ OPEN/CLOSE	ディスクトレイの開閉

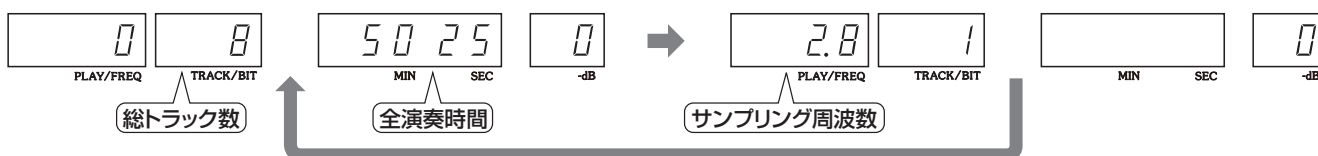
6.2 ディスプレイ部の表示

ディスプレイ部は、ディスクや演奏中の曲に関する情報を表示します。

※テキスト情報の表示はできません。

STOP中の表示

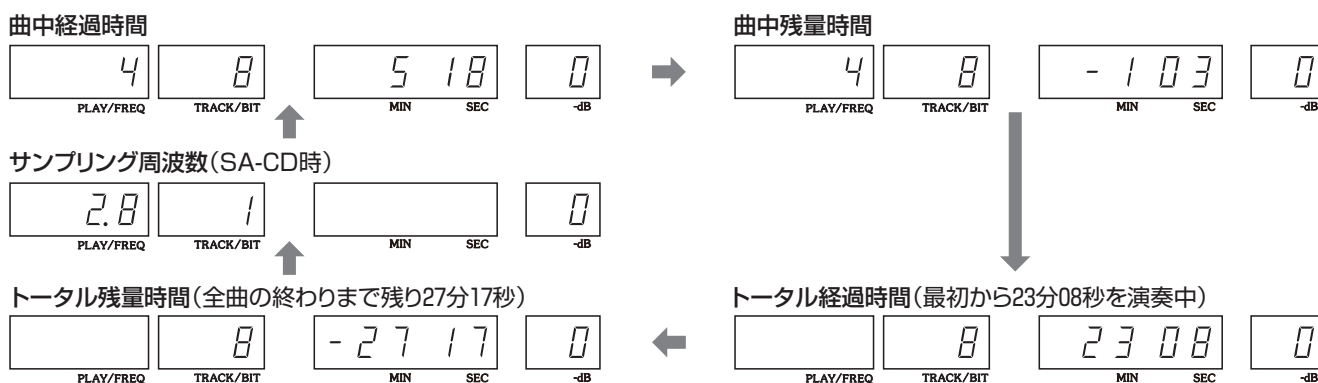
[TIME] ボタンを押すたびに、以下のように表示を切り替えます。



PLAY中の表示

SA-CD/CDの場合

[TIME] ボタンを押すたびに、以下のように表示を切り替えます。

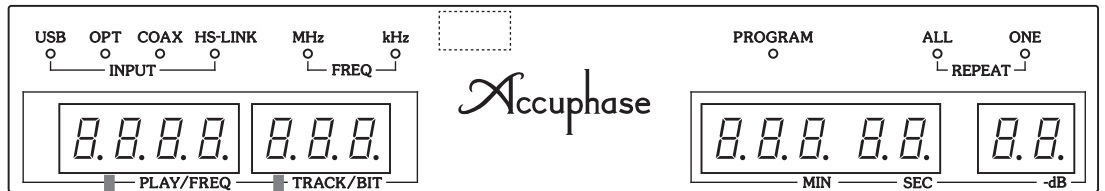


※プログラム演奏中の表示切り替えについては、21ページをご参照ください。

サンプリング周波数とビット数の表示

- デジタル入力がロックインしたとき、5秒間サンプリング周波数とビット数を表示します。
- リモート・コマンドの[TIME]ボタンでサンプリング周波数表示を選択すると、FREQインジケータのいずれかのLEDが点灯し、サンプリング周波数とビット数を表示します。
- サンプリング周波数表示を選択中にSA-CD/CD関係のキーを操作すると、5秒間ディスク情報等の表示に切り替わります。

11 ディスプレイ部



FREQ / サンプリング周波数の表示

リニアPCM

MHz kHz
FREQ

32.0	44.1
48.0	88.2
96.0	176.4
192.0	352.8
384.0	

1bit DSD

MHz kHz
FREQ

2.8
5.6
11.2

ロックしていない時

PLAY/FREQ

BIT / ビット数の表示

リニアPCM

TRACK/BIT

0	データがないとき
16	16ビット
24	24ビット
32	32ビット

1bit DSD

TRACK/BIT

1	1ビット
---	------

*1ビット以外の表示はありません。

ロックしていない時

TRACK/BIT

6.3 指定した曲から演奏

◎指定したトラックの先頭から演奏を開始することができます。

トラック番号を入力すると、指定したトラック番号が10秒間点滅しますので、点滅中に▶PLAYを押します。

(例) 5曲目の演奏 : → ▶PLAY
 15曲目の演奏 : → → ▶PLAY
 115曲目の演奏 : → → → ▶PLAY

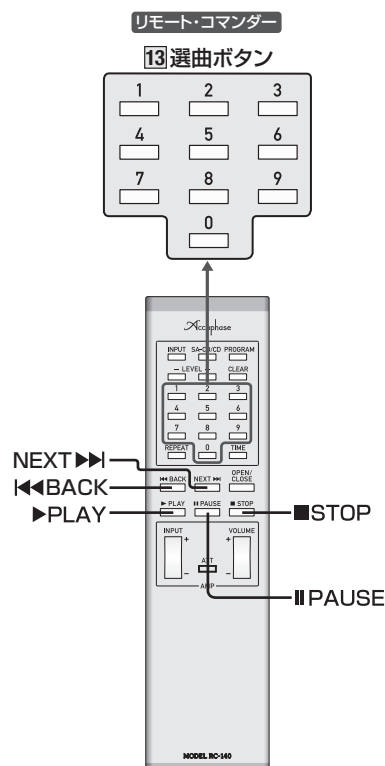
指定したトラック番号の解除

トラック番号を入力した後に、指定したトラック番号を解除したい場合には、以下に示した何れかの方法で指定が解除されます。

- 10秒間放置する。
- ■STOPを押す。

メモ

- PLAY、STOP中に選曲ボタンと||PAUSEを押すと、指定したトラックの先頭でPAUSE(一時停止)になります。
- PAUSE(一時停止)中に選曲ボタンと▶PLAYを押すと、指定したトラックの先頭から演奏を開始します。
- ◀◀BACK/◀NEXT▶▶ボタンを使って、任意のトラックを選択することも可能です。
- 総トラック数以上のトラックを選曲した場合は、最後のトラックを再生します。
- 選曲できるトラックは、CD : 99曲目、SA-CD : 255曲目までです。

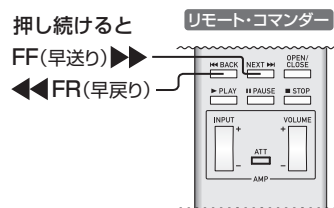


6.4 曲の途中から演奏

PLAY中に探す

- ① PLAYボタンを押して演奏を開始します。
- ② ◀◀BACK/NEXT▶▶ボタンを押し続けると◀◀FR(早戻し)/FF(早送り)▶▶となります。

再生音が断続的に聴こえますので、希望の部分に近づいたら、ボタンを離します。その部分から演奏を始めます。



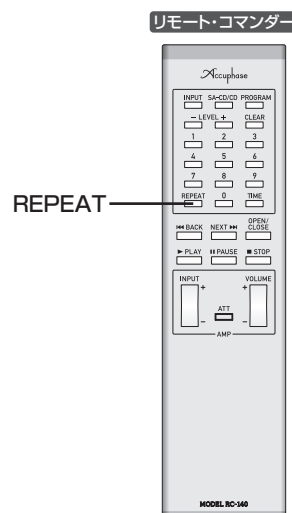
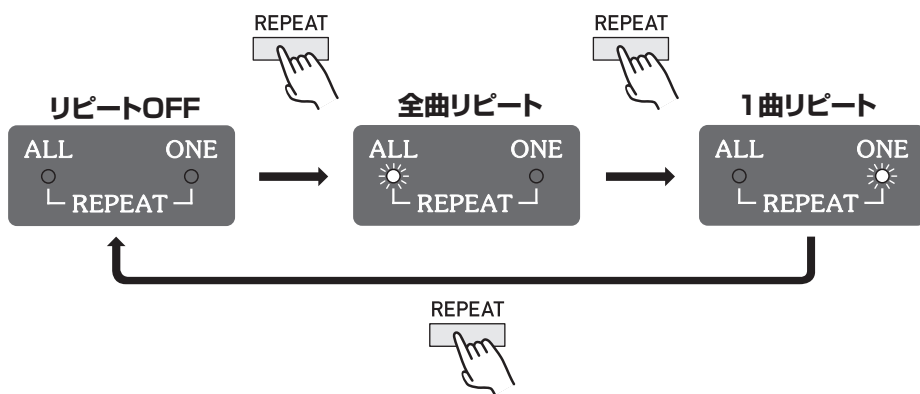
メモ

- STOP/PAUSE中にFF/FR機能は使用できません。
- トラックをまたいでのFF/FRはできません。
- NEXT▶▶ボタンを押し続けて最後の曲の終わりまで進むと、STOP状態になります。

6.5 リピート演奏

REPEATボタンでの切り替えで、全曲または1曲の繰り返し演奏が可能です。

- ① REPEATボタンを押して、全曲または1曲の繰り返し演奏を選択します。
- ② PLAYボタンを押して演奏を開始します。

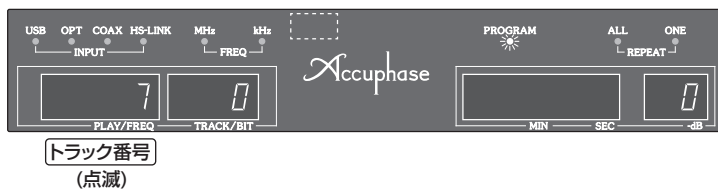


6.6 プログラム演奏

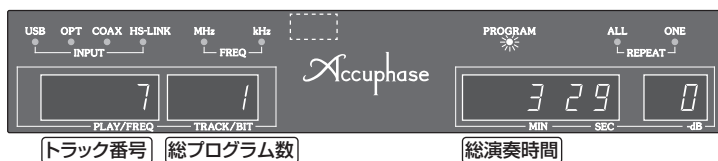
プログラム機能を使えば、最大20曲までお好みの順番で演奏をお楽しみいただけます。
プログラム演奏の操作は、全てリモート・コマンダーのキーで行います。

プログラム演奏を行うには

- 1 STOP状態中に**PROGRAM**ボタンを長押し(2秒以上)すると、**PROGRAM LED**が点灯しプログラム演奏の操作が可能な状態になります。
- 2 演奏したいトラックの選曲ボタンを押します。ディスプレイ上では、選択したトラック番号が点滅します。
選曲ボタンを押し間違えたときは、**STOP**ボタンを押すことで再入力が可能です。



- 3 **PROGRAM**ボタンを押すと選択したトラック番号が記憶されます。ディスプレイ上には、トラック番号、総プログラム数、総演奏時間が表示されます。



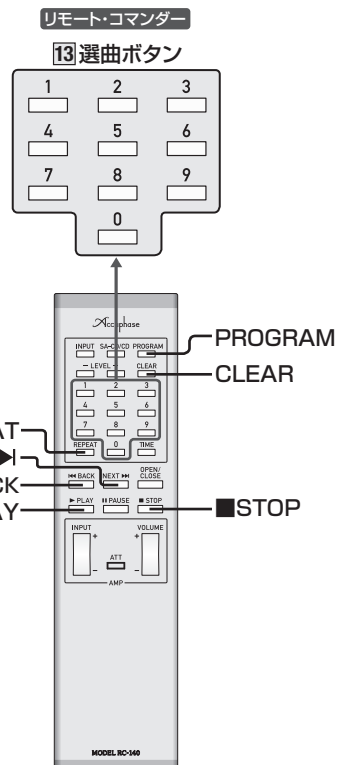
- 4 プログラム演奏に、さらにトラックを追加したい場合には、上記2項と3項を繰り返します。
- 5 **PLAY**ボタンを押すとプログラムした順番で演奏が始まります。

メモ

- プログラムした内容を変更したい場合は、**CLEAR**ボタンで最後の曲から順番に削除を行い、再び入力します。
- プログラム演奏中に**BACK**/**NEXT**ボタンを押すと、プログラムの内容に従ってトラックを移動します。
- プログラム演奏中に選曲ボタンは機能しません。
- プログラム演奏中も**REPEAT**ボタンで、プログラムした全曲のリPEAT演奏が可能です。1曲のリPEAT演奏はできません。
- ハイブリッド・ディスクによるSA-CDとCDが混在したプログラム演奏はできません。
PROGRAM LEDが消灯している状態でSA-CDかCDを選択してください。
- データ・ディスクはプログラム演奏ができません。

プログラムの内容を確認するには

PROGRAM LEDが点灯していてSTOP状態であれば、**BACK**/**NEXT**ボタンを押すことで、プログラムの内容を確認できます。



表示を切り替えるには

PLAY中に**TIME**ボタンを押すと、以下のように表示を切り替えます。
トータル経過時間及びトータル残量時間の表示はできません。

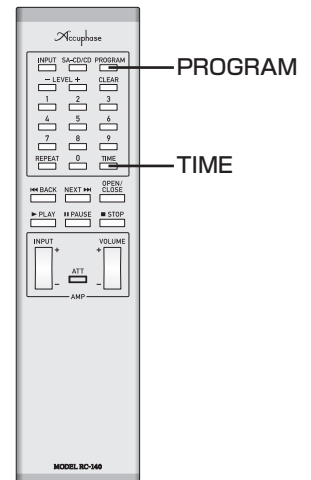
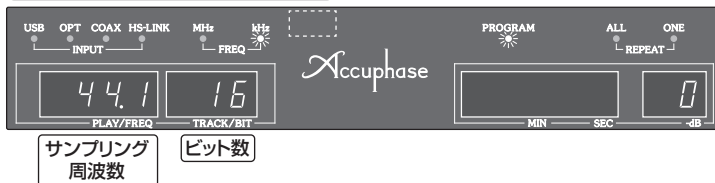
演奏中のトラックの経過時間



演奏中のトラックの残り時間



サンプリング周波数とビット数



通常の演奏に戻すには

下記いずれかの方法で、通常の演奏に戻ります。プログラムの内容は全て削除されます。

- STOP状態中に**PROGRAM**ボタンを長押し(2秒)して**PROGRAM LED**を消灯させる。
- ディスクトレイをOPENする。
- 本機の電源を切る。

注意

削除したプログラムの内容を再び呼び出すことはできません。プログラムの内容を再び入力する必要があります。

6.7 データ・ディスクの演奏

ご使用になるディスクや記録状態により、再生できない場合があります。

ファイナライズされていないディスクは再生できません。

再生できるファイルの仕様

	サンプリング周波数	ビット数	再生できるディスクの種類			拡張子
			CD-R CD-RW	DVD-R DVD-RW	DVD+R DVD+RW	
WAV	32 / 44.1 / 48 / 88.2 / 96 / 176.4 / 192kHz	16 / 24ビット	○*1	○	○	.wav
FLAC	32 / 44.1 / 48 / 88.2 / 96 / 176.4 / 192kHz	16 / 24ビット	○*1	○	○	.flac
DSD	2.8 / 5.6MHz	1ビット	—	○	○	.dff / .dsf

*1 この項目は、再生できるファイルのサンプリング周波数が32/44.1/48kHzのみとなります。

再生可能な最大ファイル数とフォルダ数

最大フォルダ数：1,000個

1つのフォルダに含まれる最大ファイル数：2,000個

認識可能フォルダ階層数・8階層まで

- 注意**
- ファイルには必ず拡張子を付けてください。拡張子を付けないファイルは再生できません。
 - 個人が録音したものは、個人として楽しむ以外では著作権法上、権利者に無断で使用できません。

- メモ**
- 本機は、著作権保護のかかかっていない音楽ファイルのみを再生できます。
 - インターネット上の有料音楽サイトからのダウンロードコンテンツには著作権保護がかかっています。
 - 再生可能な最大ファイル数とフォルダ数は、ファイルおよびフォルダ名の長さやフォルダの階層数などの条件により変わります。

ファイルの再生順番について

音楽ファイルを記録しているフォルダが複数ある場合、本機がメディアを読み取るときに自動的に各フォルダの再生順番を設定します。

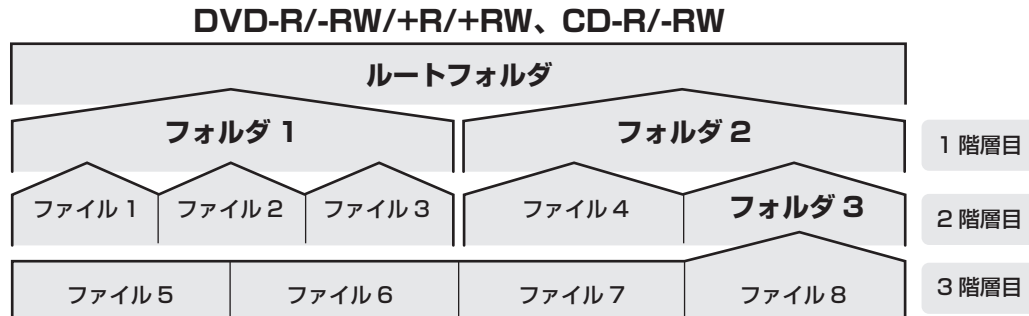
DVD-R/-RW/+R/+RW、CD-R/-RW

DVD-R/-RW/+R/+RW、CD-R/-RWに記録しているファイルは、第一階層の最初のフォルダにあるファイルを再生したあとに、第一階層の別のフォルダ・・・の後に第二階層の最初のフォルダ・・・第三階層のフォルダ・・・の順番に再生します。

- メモ**
- パソコン上で表示される順番と実際に再生する順番が異なる場合があります。
 - DVD-R/-RW/+R/+RWおよびCD-R/-RWのライティングソフトによっては、再生する順番が変わる場合があります。

フォルダとファイルの構成

DVD-R/-RW/+R/+RW、CD-R/-RWに記録された音楽ファイルは、いくつかの大きな区切り(フォルダ)と小さな区切り(ファイル)に分けられています。ファイルはフォルダに、フォルダはいくつかの階層に分けて記録させることができます。本機は8階層まで認識できます。



メモ

- 音楽ファイルをCD-R/-RWに書き込む場合、ライティングソフトのフォーマットは「ISO9660」で行なってください。他のフォーマットで記録された場合、正しく再生できないことがあります。詳しくは、ご使用のライティングソフトの説明書をご覧ください。

ファイルの再生例

ファイル、フォルダはASCII順(アルファベット順)に並べかえられ、

ルートフォルダ → 第1階層フォルダ → 第2階層フォルダ → ……

と検索して行きます。

上の図の場合、ルートフォルダにファイルがないので、フォルダ1のファイル1が最初に演奏されます。

結果として

ファイル1 → ファイル2 → ファイル3 → ファイル4 …… ファイル8

の順になります。

- 本機で対応していないファイルを再生しようとするとき「- - - - -」と点滅表示され、自動的に次の曲へジャンプします。NEXTまたはBACKで対応していないファイルを指定した場合は、NEXT時は次の曲に、BACK時は前の曲にジャンプします。



再生方法について

データ・ディスクの再生はSA-CDやCDと同様に行えます。**[REPEAT]**ボタンで全曲と1曲のリピート演奏も可能です。ただし、以下の操作はできません。

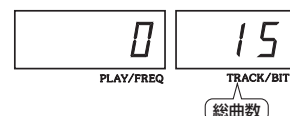
- リモート・コマンダーの選曲ボタンおよびフォルダの選択
- SA-CD/CDの切り換え
- 曲中残量時間、トータル経過時間及びトータル残量時間の表示
- フォルダごとのリピート再生
- NEXTやBACKの連打によるトラック・ジャンプ
- プログラム演奏

表示について

リモート・コマンダーの**[TIME]**ボタンを押すたびに、以下のように表示を切り替えます。



停止中は総曲数(演奏不可ファイルも含めた音楽ファイルの数)が表示されます。



DSDディスクについて

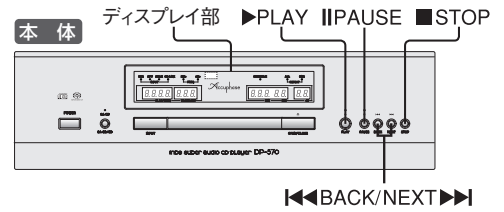
DSDディスク: 「DSD_DISC」という名前のフォルダにDSFフォーマットのファイルを入れたディスクです。

パソコンなどで作成したDVD-R/-RW/+R/+RWディスクが再生可能です。

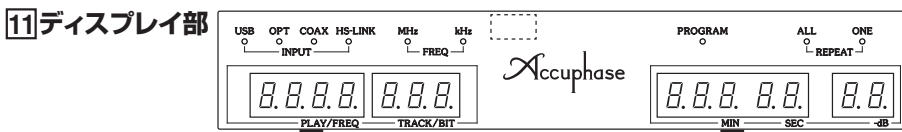
7. 機能設定：セッティング・モード

■ **STOP** ボタンを2秒以上押し、セッティング・モードに入り、「HS-LINKの切替」「電源ON時のプレイ動作」、「自動ポーズの時間」を設定することができます。また、変更した機能を初期設定に戻すことができます。

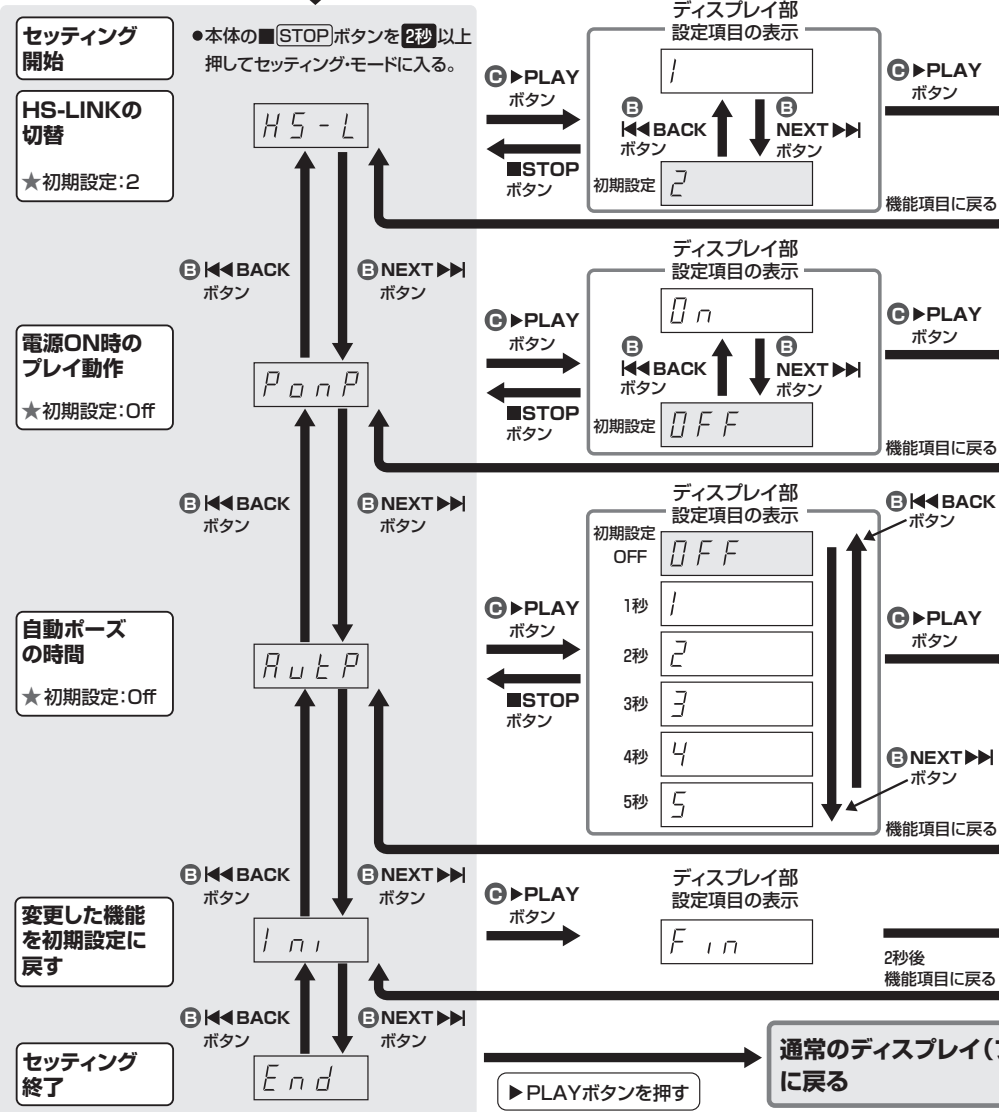
- セッティング・モードで操作できるのは、本体のボタンのみで、リモート・コマンダーのボタンでは操作しません。
- ディスク再生時に設定を行わないでください。



注意 * 各モードの設定途中でキャンセルしたい場合は、■ **STOP** ボタンを押すと一つ前のモードに戻ります。



機能項目の表示



1 : HS-LINK Ver.1
2 : HS-LINK Ver.2
 HS-LINK Ver.2は、HS-LINK Ver.1の上位規格です。HS-LINK Ver.2に対応しない機器もありますので、HS-LINK Ver.1およびHS-LINK Ver.2については5ページを参照してください。

ディスクが入った状態で電源を入れたとき
On : 自動的に演奏が始まります
Off : STOP(停止)状態になります
 Onの場合、市販のタイマーと組み合わせると、好きな時間に演奏を始めることができます。

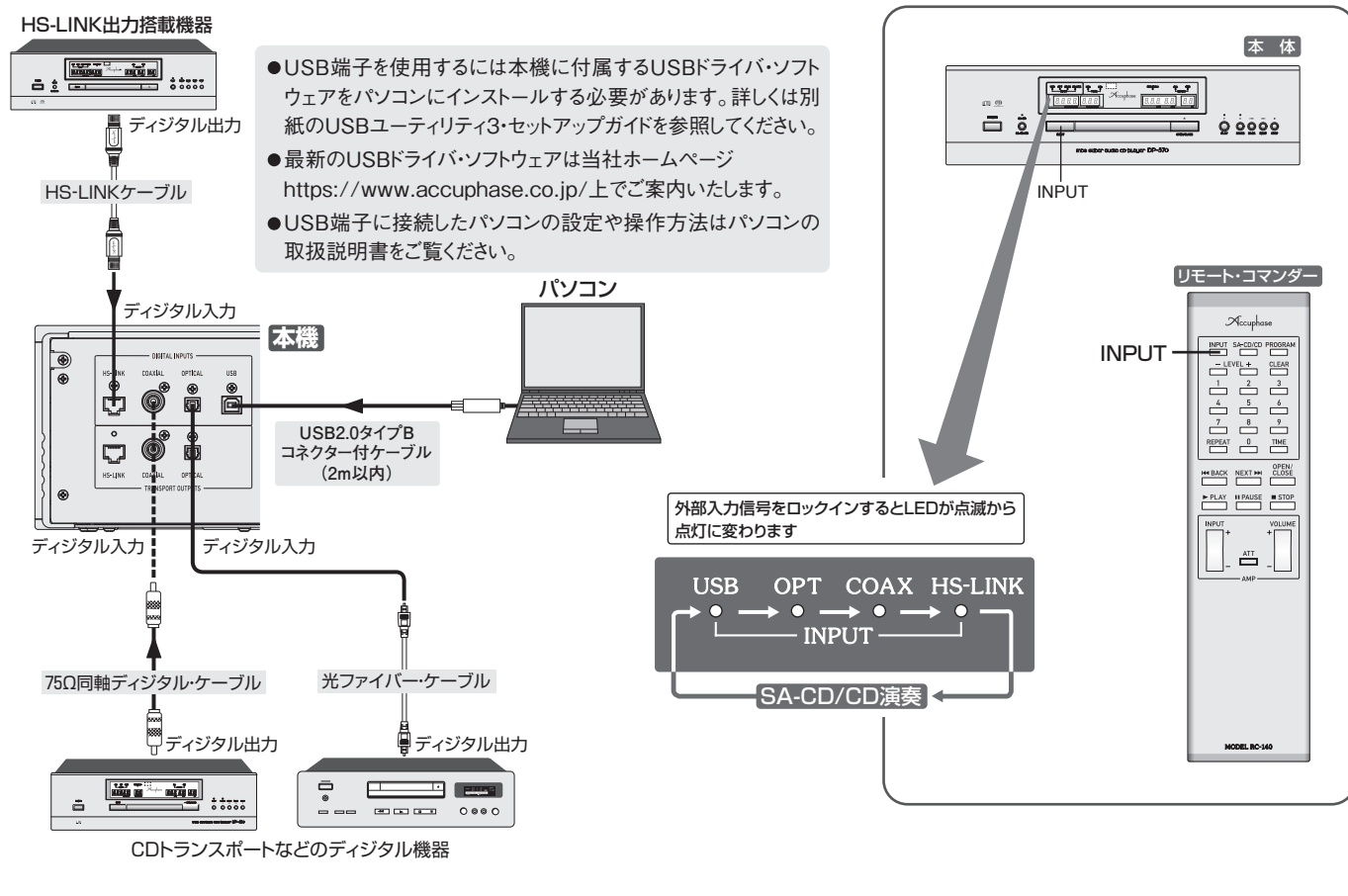
スタート時の自動ポーズ時間設定
 外部DACなど接続機器のミュート時間が異なり、本機の演奏開始と接続機器のロックインする時間に余裕がないと、曲の頭出して音が途切れてしまいます。これを防ぐため、曲がスタートするときに自動的にポーズする時間を設定することができます。最大5秒まで可能です。
 自動ポーズ中に **▶PLAY** **||PAUSE** **■STOP** **SA-CD/CD** **▲OPEN/CLOSE** ボタンを押した場合、自動ポーズ動作はキャンセルされ、押したボタンに対応した動作になります。

* 各項目の設定は **▶PLAY** ボタンを押して決定・メモリされます。 **▶PLAY** ボタンを押さず、 **■STOP** で各項目を終了した場合、設定内容の変更は記憶されません。変更前の状態になります。
 * セッティング・モード中はその操作に必要なキー(**▶PLAY**, **◀◀BACK/NEXT▶▶**, **■STOP**)および **▲OPEN/CLOSE** 以外のボタン及びリモート・コマンダー操作はできません。

8. デジタル端子の活用方法

8.1 デジタル信号を入力して演奏する場合

本機に他のCDプレーヤーなどデジタル機器のデジタル信号を入力すると、高音質な演奏をお楽しみいただけます。



操作手順

- 1 CDトランスポートなど外部機器のデジタル出力端子と本機の「DIGITAL INPUTS」端子を接続します。
- 2 各機器の電源を入れます。
- 3 **INPUT** ボタンまたはリモート・コマンダーの **INPUT** ボタンで、外部入力機器 (USB、OPTICAL、COAXIAL、HS-LINK) を選択します。
- 4 外部接続機器を操作して演奏をお楽しみください。

デジタル入力端子	接続ケーブル
HS-LINK	HS-LINK ケーブル
USB	USB2.0タイプBコネクター付ケーブル (2m以内)
OPTICAL	光ファイバー・ケーブル (JEITA 規格)
COAXIAL	75Ω同軸デジタル・ケーブル

注意

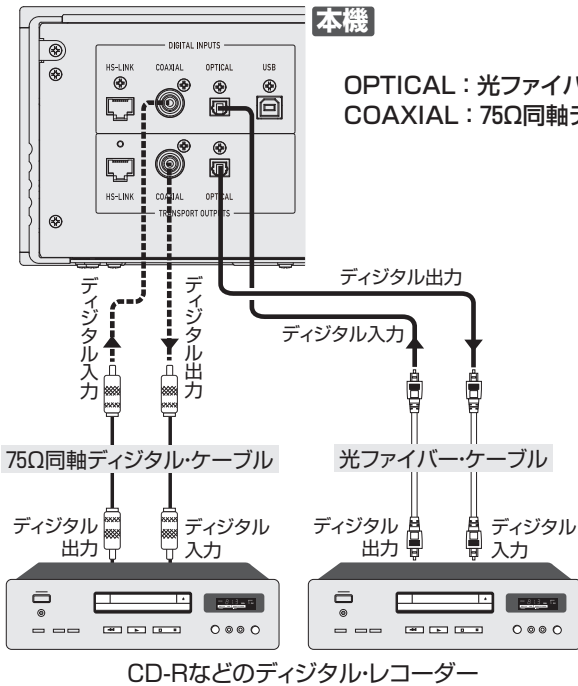
- 光ファイバーは、曲げなどの力には非常に弱く、断線する場合があります。長さに余裕があるときは、セットの後ろで丸く (直径10 cm以上) 束ねておいてください。決して強く曲げないでください。切断、再加工などはできません。
- 光ファイバーは、コア (芯材) に光信号が通ります。プラグの先端のキズ、汚れ、レセプタクルの中の異物は、大敵です。使用しない時には、必ずキャップを付けておいてください。
- 光ファイバーの抜き差しは、プラグをしっかり持って行かない、ファイバーを引っ張らないように注意しましょう。

8.2 デジタル・レコーダーで録音・再生をする場合

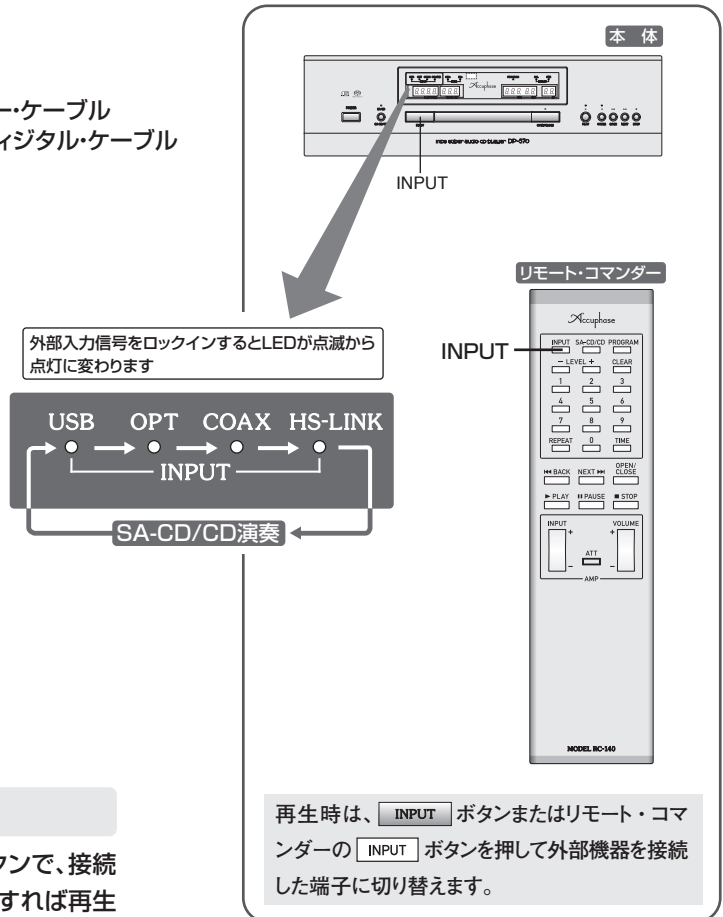
デジタル・レコーダーを接続すると、CDの録音と再生ができます。

注意

- 「TRANSPORT OUTPUTS」端子には、本機のCDデジタル(トランスポート)信号が出力され録音可能になります。
- INPUT** ボタンまたはリモート・コマンダーの **INPUT** ボタンでプロセッサー外部入力に切り替えても本機のCDトランスポート動作は継続していますから、そのまま録音可能です。
- SA-CDのデジタル信号は録音できません。



OPTICAL : 光ファイバーケーブル
COAXIAL : 75Ω同軸デジタルケーブル



再生時は、**INPUT** ボタンまたはリモート・コマンダーの **INPUT** ボタンを押して外部機器を接続した端子に切り替えます。

再生

INPUT ボタンまたはリモート・コマンダーの **INPUT** ボタンで、接続したソース(入力端子)に合わせ、レコーダーを再生状態にすれば再生音を聴くことができます。

録音

操作手順

- 1 本機でCDを再生して、スピーカーから音を出して確認します。
- 2 このデジタル信号が各「TRANSPORT OUTPUTS」端子からレコーダーへ出力されます。
- 3 デジタル録音は、レコーダー側で録音側のサンプリング周波数(CDの場合: 44.1kHz)を設定(変換)します。
- 4 レコーダーの録音をスタートすれば、本機のCDトランスポートのデジタル録音ができます。
- 5 「TRANSPORT OUTPUTS」の各端子には、同一信号が出力されますので、接続してあるレコーダー(但し、録音側のサンプリング周波数に注意)で同時に録音することができます。

注意

録音中にプロセッサー外部入力に切り替えても、そのまま本機のCDトランスポートの録音を継続することができます。ただし、アナログ出力(スピーカーからの音)は外部接続機器の出力になります。

注意

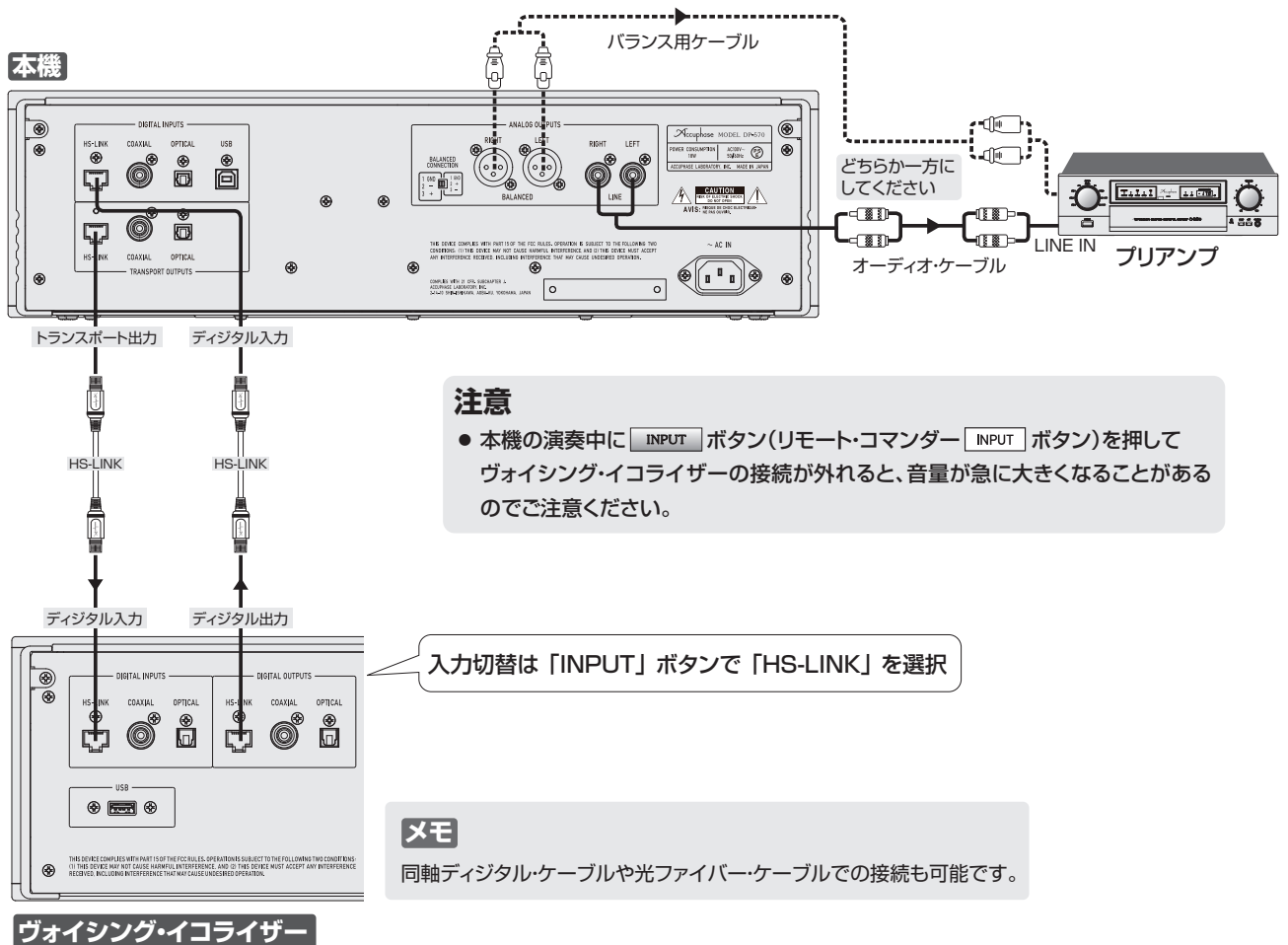
- * デジタル録音の場合、SCMS(シリアル・コピー・マネージメント・システム)により、一度デジタル録音で作成したソースは他のDATやMDIにデジタルで録音することはできません。
- * デジタル → デジタルでの録音の場合、ソース側とレコーダー側相互のサンプリング周波数が合わないと録音できません。
- * デジタルレコーダーに録音すると、すべてのトラックは結合されて、1つのトラックになります。

8.3 ヴォイシング・イコライザーをデジタル信号で接続する場合

ヴォイシング・イコライザーを接続する場合、プリアンプとパワーアンプの間にアナログ信号でヴォイシング・イコライザーを接続する方法を推奨しております。この方法では全ての音源をヴォイシング・イコライザーで補正することができます。

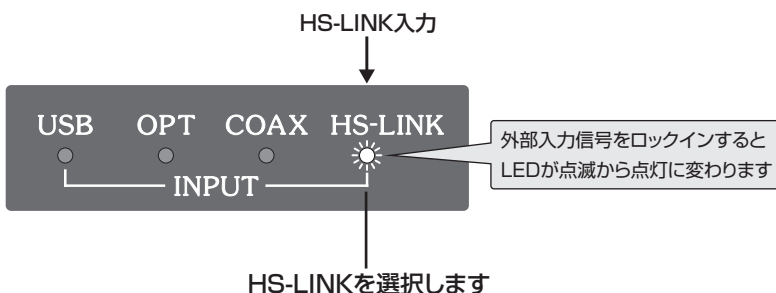
一方、SA-CD/CDなどのディスクの演奏のみをヴォイシング・イコライザーで補正したい場合には、本機とヴォイシング・イコライザーをデジタル信号で直接接続することが可能です。

- 詳しい動作・接続方法は、ヴォイシング・イコライザーの取扱説明書を参照してください。

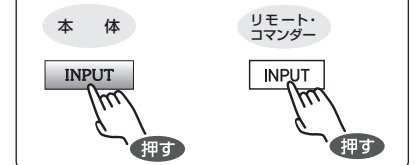


デジタル入力の選択

INPUT ボタンまたはリモート・コマンダーの **INPUT** ボタンでHS-LINKを選択します。



入力の切り替え



メモ

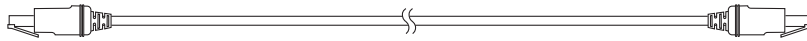
ハイブリッド・ディスクを演奏時にSA-CD/CD切替ボタンを押すと、切り替えの間LEDが点滅してから点灯に変わります。

8.4 HS-LINKケーブルについて

HS-LINKケーブル(1.5m) AHDL-15

HS-LINKケーブルは本機と当社製品とをデジタル信号で接続し、SA-CDなどの広帯域、広ダイナミックレンジの演奏をお楽しみいただけるケーブルです。

- 三重シールド付ツイスト・ペアー8芯ケーブル



特注品 AHDL-30(3.0m)もごさいます。

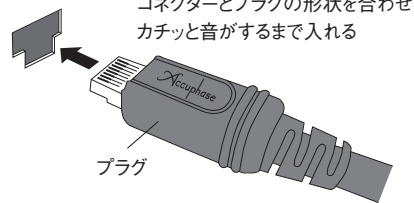
HS-LINKケーブルの接続

AHDL-15

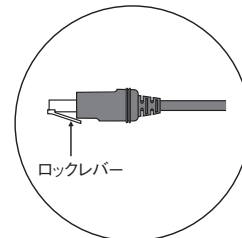
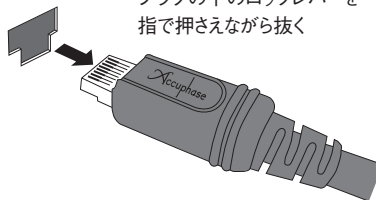


外したキャップは
保管してください

差すとき



抜くとき



9. 保証特性

[保証特性は JEITA 測定法 CP-2402A に準ずる]

[測定用ディスク：PHILIPS 3122-783-00632]

トランスポート部

適合ディスク

- 2チャンネルSuper Audio CD
CD
DSDディスク DVD-R/-RW/+R/+RW
(DSFファイルフォーマット)
データ・ディスク CD-R/-RW、DVD-R/-RW/+R/+RW
(対応フォーマット：WAV、FLAC、DSF、DSDIFF)

読み取り方式

非接触光学式

レーザー・ダイオード発光波長

SA-CD用：655nm

CD用：790nm

レーザークラス

クラス1レーザー機器(IEC 60825-1)

トランスポート出力

- HS-LINK** コネクター形状：RJ-45
適合ケーブル：HS-LINK専用ケーブル
OPTICAL フォーマット：JEITA CP-1212準拠
COAXIAL フォーマット：IEC 60958準拠

デジタル・プロセッサ部

デジタル入力

- HS-LINK**
コネクター形状：RJ-45
適合ケーブル：HS-LINK専用ケーブル

USB

- フォーマット：USB2.0/ハイスピード(480Mbps)準拠
適合ケーブル：USB2.0タイプBコネクター付ケーブル

OPTICAL

- フォーマット：JEITA CP-1212準拠
適合ケーブル：JEITA規格光ファイバーケーブル

COAXIAL

- フォーマット：IEC 60958準拠
適合ケーブル：75Ω同軸デジタルケーブル

サンプリング周波数

入力	フォーマット (2ch)	サンプリング周波数	ビット数
HS-LINK Ver.1	DSD	2.8MHz	1
	PCM	32 / 44.1 / 48 / 88.2 / 96 / 176.4 / 192kHz	16~24
HS-LINK Ver.2	DSD	2.8 / 5.6MHz	1
	PCM	32 / 44.1 / 48 / 88.2 / 96 / 176.4 / 192 / 352.8 / 384kHz	16~32
USB	DSD	2.8 / 5.6 / 11.2MHz (11.2MHz：ASIOのみ)	1
	PCM	32 / 44.1 / 48 / 88.2 / 96 / 176.4 / 192 / 352.8 / 384kHz	16~32
OPTICAL	PCM	32 / 44.1 / 48 / 88.2 / 96kHz	16~24
COAXIAL	PCM	32 / 44.1 / 48 / 88.2 / 96 / 176.4 / 192kHz	16~24

D/Aコンバーター

4MDS+方式

周波数特性

0.5~50,000Hz +0、-3.0dB

全高調波ひずみ率 + 雑音

0.0006%(20~20,000Hz間)

S/N

120dB

ダイナミックレンジ

117dB

チャンネル・セパレーション

117dB(20~20,000Hz)

出力電圧・出力インピーダンス

BALANCED：2.5V 50Ω 平衡 XLRタイプ
LINE：2.5V 50Ω RCAフォノジャック

出力レベル・コントロール

0dB~-80dB(デジタル方式)1dBステップ

電源

AC100V 50/60Hz

消費電力

18W

最大外形寸法

幅465mm × 高さ151mm × 奥行393mm

質量

19.0kg

付属リモート・コマンダー RC-140

- 方式：赤外線パルス方式
電源：単3形乾電池2個使用
最大外形寸法：50mm×192.5mm×20.5mm
質量：212g(電池含む)

●本機は「JIS C-61000-3-2 適合品」です。

JIS C-61000-3-2 適合品とは、日本産業規格「電磁両立性-第3-2部：限度値-高調波電流発生限度値(1相あたりの入力電流が20A以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

著作権について

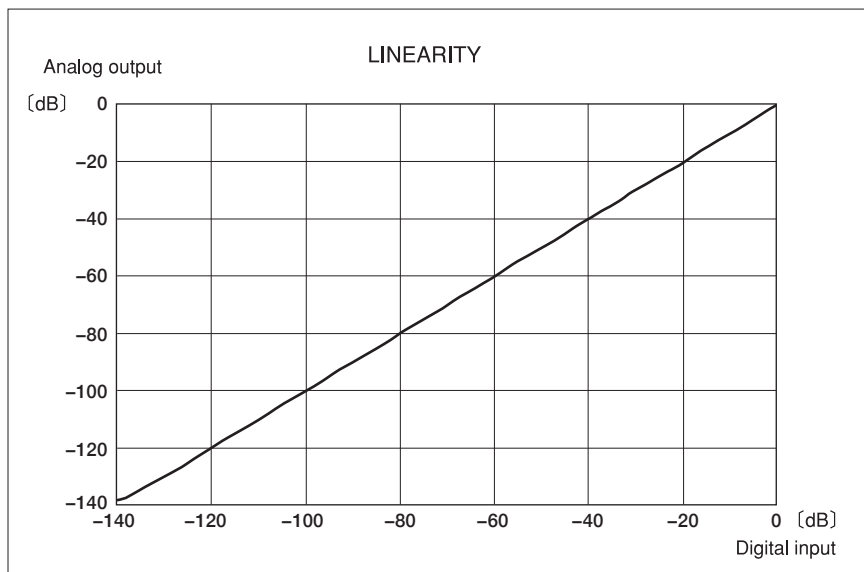
放送や録音物(CD、テープなど)から、あなたが録音したものは、個人として楽しむ以外、権利者に無断で使用することはできません。音楽作品は著作権法により保護されています。

*本機の仕様・特性および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

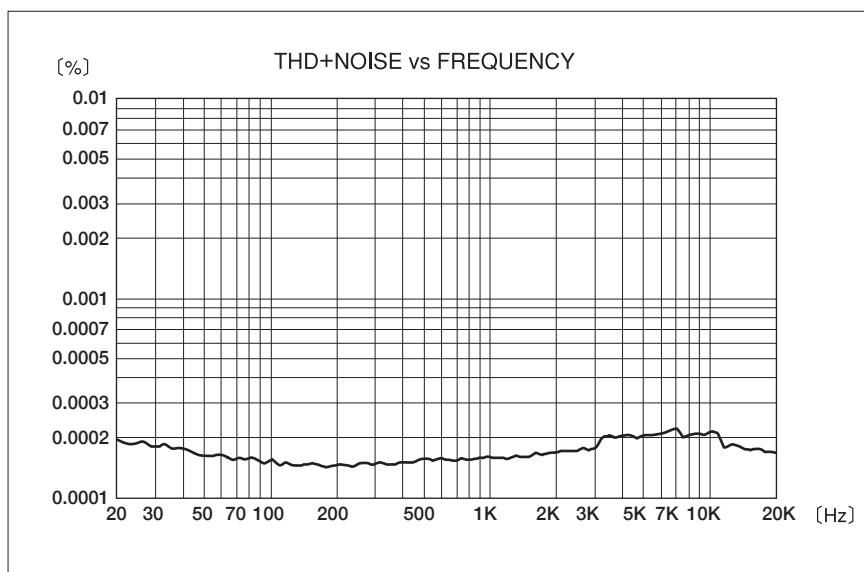
デジタル端子
の活用方法

保証特性

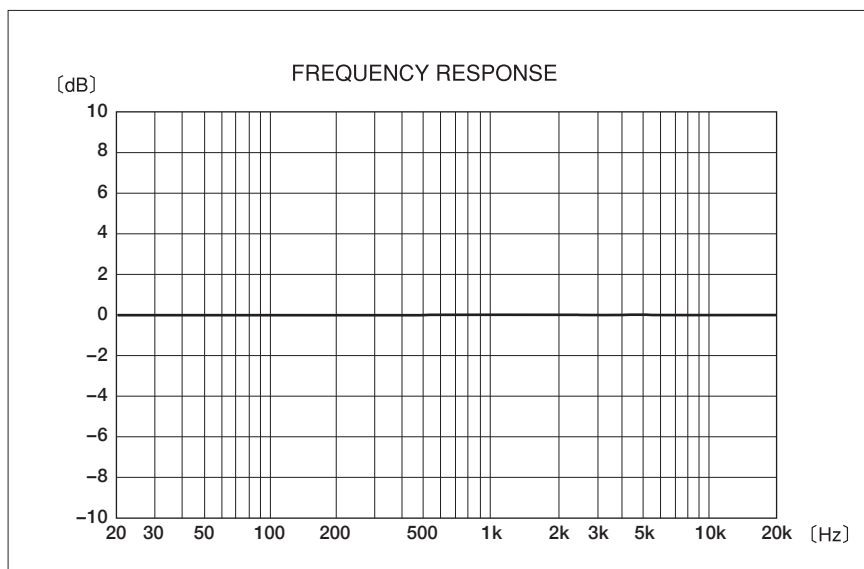
10. 特性グラフ



リニアリティ
(デジタル入力対アナログ出力)

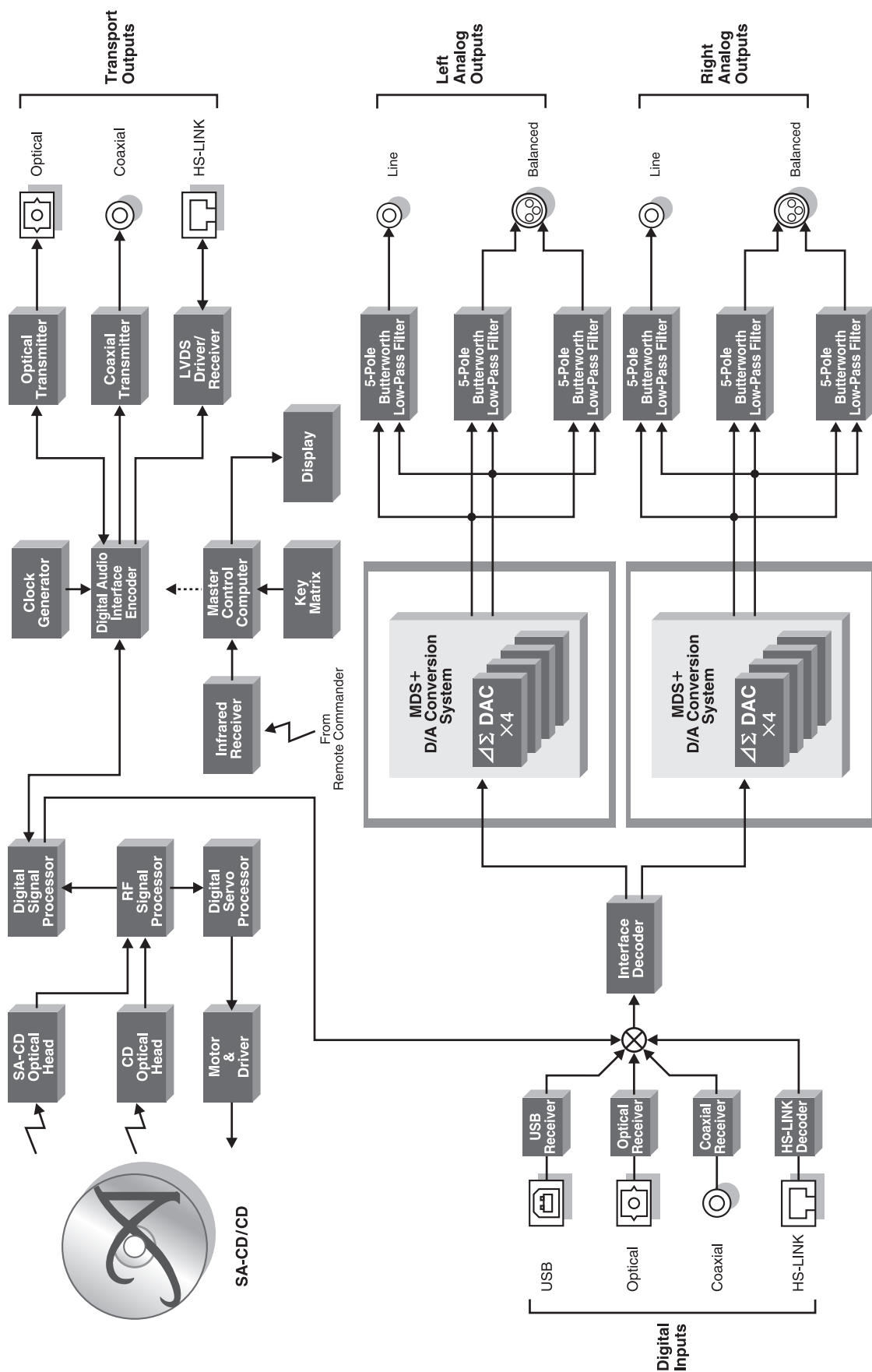


全高調波ひずみ率
(雑音含む) 対周波数特性



周波数特性

11. ブロック・ダイアグラム



特性グラフィック
ブロック・ダイアグラム

12. 故障かな?と思われるときは

故障かな?と思われるときは、修理を依頼される前に、下記の項目をチェックしてください。

これらの処置をしても直らない場合には、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。



注意：接続を変えるときは、必ず各機器の電源スイッチを切る。

現象	原因等	対処方法
電源が入らない。	電源コードが抜けている。	本体側とコンセント側の挿入箇所を確認します。
	電源コードが傷んでいる。	危険ですので傷んでいる電源コードは使用せず、当社製品取扱店または当社品質保証部へご連絡ください。
デジタル出力で接続した機器がロックしない。	接続した機器がHS-LINK Ver.2に対応していない。	本機のHS-LINK出力をVer.1に設定してください(24ページ参照)。
	接続した機器の入力選択が異なる。	接続した機器の入力をお確かめください。
	同軸ケーブルまたは光ファイバーで接続し、SA-CDを演奏している。	HS-LINKで接続してください。同軸ケーブル及び光ファイバーケーブルではSA-CDの信号を出力できません。
演奏が始まらない	外部入力を選択している。	3 INPUTボタンでSA-CD/CD演奏を選択します(8ページ参照)。
	ピックアップレンズが結露している。	電源を入れてディスクを取り出し、1時間ほど経過すると結露は自然になくなります。
	本機では演奏できないディスクを装着している。	本機で演奏できるディスクをご確認ください(5ページ参照)。
音が途切れる。 雑音が出る。 演奏途中でディスクが止まる。	ディスクに反りや汚れや傷がある。	ディスクをご確認ください。
	光ファイバーケーブルのプラグが汚れている。	光ファイバーケーブルのプラグをご確認ください。
両方または片方のスピーカーから音が出ない。	接続が正しくされていない。	全ての機器が正しく接続されているか確認します。
	信号が出力されていない。	全ての機器が信号を出力する状態であるか確認します。
片方のスピーカーから音が出ない。	上記“両方または片方のスピーカーから音が出ない。”の原因に該当しない場合。	下記“片方のスピーカーから音が出ない場合に原因を探す方法”をお試しください。
定位感がはっきりしない。	片方のチャンネルだけ位相が逆になっている。	スピーカー・ケーブルの極性(+ / -)が正しいか確認します。
リモート・コマンダーで操作できない。	電池が入っていない。	電池を入れる。
	電池の極性が異なる。	電池ケースの⊕⊖を確認し、電池を正しく挿入する。
	電池が切れている。	新しい電池と交換する。
	受光部付近に障害物がある。	受光部付近に障害物を置かない。
電源スイッチを入れると自動的に演奏が始まる。	テレビやインバーター照明等の影響で、受信できない。	テレビやインバーター照明等から離す。
電源スイッチを入れると自動的に演奏が始まる。	電源ON時のプレイ動作が設定されている。	電源ON時のプレイ動作を解除する(24ページ参照)。

片方のスピーカーから音が出ない場合に原因を探す方法

注意：接続を切り替える時は、必ず各機器の電源を切る

手順	方法	結果	原因
1	左右のスピーカー・ケーブルの接続を以下のように入れ替えます。 ●パワーアンプ(またはプリメイン・アンプ)の左チャンネル → スピーカーの右チャンネル ●パワーアンプ(またはプリメイン・アンプ)の右チャンネル → スピーカーの左チャンネル	同じチャンネルのスピーカーから音がでない。	スピーカー・ケーブルの接続やスピーカーに問題があると考えられます。
		反対チャンネルのスピーカーから音がでない。	プレーヤーまたはリアンプまたはパワーアンプ(またはプリメイン・アンプ)に問題があると考えられます。さらにセパレート・アンプの場合には手順2を、プリメイン・アンプの場合は手順3を行います。
2	ケーブルの接続を以下のように入れ替えます。 ●リアンプの左チャンネル → パワーアンプの右チャンネル ●リアンプの右チャンネル → パワーアンプの左チャンネル	同じチャンネルのスピーカーから音がでない。	パワーアンプに問題があると考えられます。
		反対チャンネルのスピーカーから音がでない。	プレーヤーまたはリアンプに問題があると考えられます。さらに手順3を行います。
3	ケーブルの接続を以下のように入れ替えます。 ●本機の左チャンネル → プリアンプ(またはプリメイン・アンプ)の右チャンネル ●本機の右チャンネル → プリアンプ(またはプリメイン・アンプ)の左チャンネル	同じチャンネルのスピーカーから音がでない。	リアンプ(またはプリメイン・アンプ)に問題があると考えられます。
		反対チャンネルのスピーカーから音がでない。	プレーヤーに問題があると考えられます。

故障かな?と思われるときは

アフターサービスについて

13. アフターサービスについて

保証書について

- 保証書は本体付属の『お客様カード(保証書発行はがき)』の登録でお送りいたしますので、「お客様カード」を**当社品質保証部に必ずご返送ください。**
- 『お客様カード』の『お客様情報欄』には付属の『目隠しシール』を貼ってご返送ください。
- 保証書の記載内容により、**本機の保証期間はご購入日から5年間です。**
- 『品質保証書』の無い場合は、**全て有償修理となります**ので、『お客様カード』は必ずご返送ください。
- 『お客様カード』をご返送いただく時、ご購入日等を記入して頂きますが、下記の場合には『品質保証書』の発行ができないことがあります。
 - *ご購入頂いた購入日と弊社からの製品出荷日とが大きく異なる場合。
 - *『お客様カード』が返送されないまま、転売(インターネット等)された場合。
 - *長期間『お客様カード』の返送がない場合。
- オプション類には『お客様カード』を付属していませんが、製品出荷日をご購入日として弊社が登録し、『5年間保証』とさせていただきます。

保証期間が過ぎてしまったら

- 修理によって性能を維持できる場合には、ご希望により有料で修理いたします。
- 補修部品の保有期間は経済産業省指導により、製造終了後8年間となっています。使用期間が相当経過している場合には、当社品質保証部にお問い合わせください。



注意

保証期間以降、長期に渡って安全にご使用いただくために、当社での定期的な点検を行ってください。内容については当社品質保証部にご相談ください。

その他

- 本機は絶対に分解や改造をしないでください。修理ができない場合があります。
- 本機の故障に起因する付随的損害(営利的使用に関する諸費用、使用により得られる利益の損失等)については補償できません。
- AC100V以外(海外)では使用できません。
- 保証は日本国内のみ適用されます。**
The Accuphase warranty is valid only in Japan.

お問い合わせは

- ご質問、ご相談、当社製品取扱店のご案内などは、下記の当社品質保証部へお願いします。

アキュフェーズ株式会社 品質保証部
〒225-8508 横浜市青葉区新石川2-14-10
TEL 045(901)2771(代表)
FAX 045(901)8995

- 修理のご相談は、お買い求めの当社製品取扱店へお願いします。
- 当社のホームページ上でも修理のお問い合わせが可能です。
<https://www.accuphase.co.jp/>

修理を依頼する場合には

- “故障かな?と思われるときは”をご確認後、直らない場合には、電源プラグをコンセントから抜き、当社製品取扱店に修理を依頼してください。

次の内容をお知らせください。(保証書参照)

- モデル名、シリアル番号
- ご購入日、ご購入店
- ご住所、氏名、電話番号
- 故障状況：できるだけ詳しく

- * 梱包材は、輸送時に必要となりますので、可能であれば保管しておいてください。

enrich life through technology



ACCUPHASE LABORATORY, INC.
アキュフェーズ株式会社
〒225-8508 横浜市青葉区新石川2-14-10
TEL.045-901-2771(代) FAX.045-901-8959
<https://www.accuphase.co.jp/>